普及指導活動計画

令和2年度

(基本計画 平成28年度~令和2年度)

~ 地域の人と産業の協働で築く、 躍動する東臼杵の農業・農村 ~

宮崎県東臼杵北部農業改良普及センター

まえがき

東臼杵北部地域は、県最北部に位置する延岡市を管内として、平野部から山間部まで変化に富む地理的条件の下、都市近郊産地の特徴を生かしながら、水稲を中心として畜産や野菜、花き、果樹、茶など多様な品目との複合経営が営まれています。

一方、管内の農業・農村を取り巻く情勢は、農家戸数の減少に加え、農業就業人口において65歳以上が7割を占めるなど高齢化が進行しており、さらには国内外産地との競争激化や燃油・生産資材価格の高止り、野生鳥獣被害の増加、集中豪雨や高温をはじめとする異常気象の影響など多くの課題に直面しています。

このような情勢に対応するため、東臼杵農林振興局においては、第七次農業・農村振興 長期計画後期計画に基づき、意欲ある担い手の育成・確保をはじめ、ブランド産地づくり や農家経営の改善支援等の諸施策を推進し、地域農業の振興と農家経営の安定・向上に取 り組んでいます。

農業技術等の普及指導部門を担う東臼杵北部農業改良普及センターでは、地域農業の課題解決のために、この長期計画との整合性を図りながら重点的に取り組む必要のある課題として、次の4つの基本プロジェクトに取り組んでいます。

- ①「水田フル活用による特色ある地域農業の維持・発展」
- ②「活力ある農村地域の確立のための多様な担い手の育成と生産基盤の強化」
- ③「産地戦略に基づくたまねぎ産地の維持・発展」
- ④「産地戦略に基づくシキミ産地の維持・発展」

このほか、6つの専門プロジェクト課題を取り上げて、平成28~令和2年度の5カ年の期間に取り組むこととし、成果を上げることができるよう評価と見直しを行いながら、毎年度活動計画を策定し活動を展開しております。本年度は、「施設野菜の生産振興」及び「特色ある果樹産地の維持」の課題を新たに加え、更には、労働力確保や農福連携の促進などにも取り組むこととしております。

また、JAグループとの連携による「儲かる農業の実現や産地力の維持強化」を目的とした宮崎方式の営農支援研修を継続するとともに、「ひなたGAP」認証取得を加速化させ、さらには、市が策定した「延岡市農業所得アップアクションプラン」に基づく施策との連携もとりながら、活動することとしております。

なお、年度途中での「緊急的な課題」については、内容や重要度に応じて別途対応する こととしており、農業者等からの「要請」及び「個別課題の解決」等については、関係機 関と連携や役割分担を行い、その都度、柔軟に対応しております。

この普及活動計画に対して、効率的かつ効果的な活動を展開するためには、農業者をはじめ、市・JA・その他の関係機関・団体の皆様との一体となった取組が必要ですので、引き続き御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

令和2年4月 東臼杵北部農業改良普及センター所長

東臼杵北部地域の農業



目 次

ı	`~	が	4
4	7	77)	4
\rightarrow	\sim	//	\subset

管内農業マップ

Ι		基	本計	十画																												
	第			也域	農						•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
			1		-		既況																									
			2					現:	伏																							
			3	農	業を	者の	り現	状																								
	第									こび	普	及扌	目点	享活	動	JO)	考	え	方		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
			1					展																								
							-		-)展	望																					
				2)																												
			2	普	及打	省場	享活	動	の星	基本	的	なえ	与フ	えき	Ĵ																	
	第	3	ļ	長の	実力	施フ	方針	۔ ط ۔	普及	と 指	導	活重)	十重	ゴと	<i>(</i>)	関:	連					•		•				•	•	•	8
	,,,								- ~	•••					. –		12 4	_														
П		今年	年月	きの	活動	動体	本制																									
			普及	をセ	ン	ター	- O	推	進体	比制	お	よて	バオ	舌重	力班	体	制				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	9
Ш		プ	ロミ	ジェ	ク	ト着	舌動	J																								
			プロ	ュジ	工	ク	ト活	動-	一覧	包		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	10
		2	基ス	kプ	口;	ジェ	ェク	1				•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	14
]	專門	月プ	口;	ジェ	ェク	\vdash				•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	47
				動																												
				一般									•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	79
	第	2	草	昏及	指導	尊清	舌動	jの	評征	5体	制				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	81
\mathbf{V}				料																												
	第	1	草	手及																•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	82
			1							文良	普	及『	手美	Ě 推	ŧ進	協	議	会														
			2	農	業績	圣官	営指	導	士																							
							_																									
	第	2	皇		セ、	ング	ター	·の?	舌重	力班				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	83
	第	3	貢	自占	プロ	ロヾ	ジェ	ク	ト誰	果題		<i>階(</i>	旦	全	ぱ╘	严)							•	•	•							84
	/17	$\mathbf{\mathcal{I}}$		ロハル	/			_	1 H/	\sim		<i>ッ</i> セュ ヽ	//>	т.	~//	ルヘノ																\circ

I 基本計画

この基本計画は、延岡地域の農業振興について、平成28年度から5ヶ年の普及活動の基本的な考え方をとりまとめたものです。

活動課題は、地域農業の展望を踏まえて具体的な目標を立て、その実現の要因と対応策を整理して作成した普及センター内の部門を超えたプロジェクトチームにより取り組む「基本プロジェクト」、病害虫防除対策や品質向上対策など作目担当がそれぞれの専門分野について取り組む「専門プロジェクト」、県全体の広域的課題として専門技術指導担当が、県内の広域的課題を基に作成して県域で取組む「重点プロジェクト」があります。

各年度に実施する活動内容については、各プロジェクト課題について毎年度作成する 年度計画に詳細にとりまとめ、これに基づき活動を行っていきます。

なお、年度途中で発生するGAP対応等への対応や緊急的な課題については、新たに プロジェクトを、もしくは既存のプロジェクトに設定して地域との連携を図りながら活動を展開することにしています。

第1 地域農業の概要

1 地域の概況

1) 位置および地勢

延岡市は、宮崎県の北東部に位置し、総面積は約868km²、農地面積は3,160haを有し、東には日向灘に延岡市街地、北浦町があり、内陸北方の北川町が大分県と接している。また、西側には北方町があり西臼杵に隣接している。沿海部から中山間地域まで幅広く、中央には五ヶ瀬川、祝子川、北川の三河川が流れ、急峻な岩山も多く地勢も変化に富んだ地域となっている。

2) 気象

延岡市における年平均気温は16.6 $^{\circ}$ で年平均降水量は2,292 $^{\circ}$ m、一方、北浦町古江における年平均気温は17.1 $^{\circ}$ で、年平均降水量は2,310 $^{\circ}$ mである。

沿海部は比較的温暖であるが、山間部は降雪の年もあり気象の格差がある。

3) 交通

東部沿岸部をJR日豊本線と国道10号線が南北に走り、延岡市から西臼杵を通り熊本市までを国道218号線が、北川町から10号線の西側を大分市へ通じる国道326号線が走っている。また沿海部には北浦町から延岡市街を経て門川町を通る国道388号線が走っている。また、平成28年4月には東九州自動車道が開通した。

海上交通については、新浜町に輸送拠点となる延岡新港が、また北浦町浦城港から島浦島へフェリーが運航している。

2 農業生産の現状

平成29年の管内の耕地面積は2,790haで、水田が1,830ha、畑地は、樹園地、牧草地を含めて959haとなっている。農業産出額は49億円で、最も多いのが肉用牛・乳用牛、次いで米、野菜、豚などの順となっている。

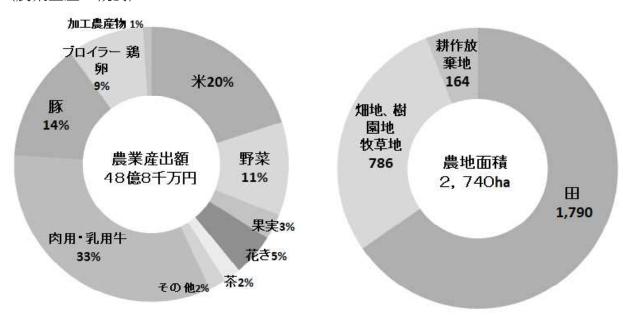
3 農業者の現状

平成27年の管内の総農家数は2,447戸、販売農家は1,515戸で総農家の62%、専業農家は577戸で総農家の24%となっている。平成22年に比べて総農家数は15%減少しており、同様に販売農家は17%、専業農家は3%減少している。

農業経営体1,548のうち家族経営体は1,526、法人は18と平成22年からほぼ同数である。集落営農数は3で、近年、取組みを志望する地区が増加しつつあり、28年度末には北方町曽木地区の集落営農組合が設立し、さらに令和元年6月に法人化された。今後、地域の重要な担い手組織となることが期待されている。

平成30年度の認定農業者は178名で、前年度と同数であり、また、新規就農者はこ こ数年10名程度となっている。青年農業者の組織であるSAP会員数は、15名程度で 推移している。

(農業生産の概要)



「平成29年市町村別農業産出額」(推計)

「H30耕地面積」農林水産関係市町村別統計 及び市農業委員会調べ

◎延岡市農業産出額 (千万円)

項目	H18	H27	H28	H29
総産出額	616 (100%)	463 (100%)	490 (100%)	488 (100%)
耕種	269 (44%)	221 (48%)	224 (46%)	212 (43%)
畜産	341 (55%)	239 (51%)	263 (54%)	272 (56%)
その他	6 (1%)	3 (1%)	3 (1%)	4 (1%)

^{※「}市町村別農業産出額」(推計)より。ただし、H27以降は花きを「宮崎の花」にて算定。

1. 管内の耕地面積、農家数・農業担い手数の推移

項目	H22	H26	H27	H28	H29	H30
耕地面積 計 (ha)	2, 910	2,850	2,840	2,830	2, 790	2, 740
田	1, 900	1,870	1,870	1,860	1,830	1, 790
普通畑	_					
樹園地	_	975	969	964	959	941
牧草地	_					
耕作放棄地(ha)	331	331	367	314	317	164
総農家数 (戸)	2, 877	_	2, 447	_	_	_
販売農家	1,816		1,515	_	_	_
専業農家 (註農家)	597	_	577	_	_	_
第1種兼業(準業)	90	_	122	_	_	_
第2種兼業(訓訓驗)	1, 129	_	816	_	_	_
農業経営体 (経営体)	1,879		1,548	_	_	_
うち家族経営	1,848	_	1,526	_	_	_
うち法人	17	_	18	_	_	_
非法人	1,862		1,530	_	_	_
販売経営体 (経営体)	1, 582		1, 314	-	_	_
うち単一経営体	1, 175		1,049	_	_	_
稲作	778	_	686	_	-	_
工芸作物	15	_	14	_	_	_
野菜	54	_	52	_	_	_
果樹類	40	_	50	_	-	_
花き・花木	-	_	63	_	-	_
畜産	208		171	_	_	_
認定農業者数 (人)	198	191	187	185	178	178
うち女性	12	12	_	_	_	_
集落営農組織数	1	2	2	3	3	3
うち農作業受託組織	1	2	2	3	3	3
うち法人	0	1	1	1	1	1
新規就農者数 (人)	5	4	5	7	7	13
家族経営協定数 (件)	85	98	99	99	100	104

[※]H26-30耕地面積は、農林水産省データ

[※]H28-30耕作放棄地面積は、市農業委員会調べ

[※]認定農業者数以下は普及センター調べ

[※]その他は農林センサス

2. 主要品目の生産の推移

(ha、頭、千羽)

	項	目	H17	H24	H25	H26	H27	H28	H29	Н30
水	、	í(普通期)	1, 230	1,070	1,040	1,048	1,016	990	965	919
野	茅	Ę						68. 4	78.6	79.8
	たま	ミねぎ	22	25. 4	28.8	27. 1	29. 2	30. 1	27. 0	24. 5
	ブロ	コッコリー	4. 6	6.6	7.8	7. 5	7. 5	7. 5	2. 5	0.5
	オク	7ラ	3	1.5	1.5	1. 5	1. 2	1. 2	0.36	1.0
	にカ	ゞ うり	1	1.0	0.8	0.7	0.7	0.8	0.3	0.4
	きゅ	▶うり(施設)	4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
	スナッ	プ゜エント゛ウ				0. 2	0. 4	0.6	0.8	0.8
	ホウ	フレンソウ						4. 3	6.6	6.6
果	上 桔	<u> </u>					111.3	109. 0	93. 9	93. 9
	温州	みかん	31	21. 2	21. 1	21. 1	16. 5	16. 4	15.8	15.8
	柿		23	17. 4	17.4	17. 4	17. 4	17. 4	16. 2	16. 2
	桃		5	2. 1	2. 1	1. 9	1. 9	1. 9	2.0	2. 0
	栗		49	47	47	47	47	47	47	47
	きん	しかん	_	_	_	_	0.6	0.6	0.5	0.5
花	き						113. 4	113. 1	112. 1	112. 1
	シキ		109	105	106	109	108.8	106.8	106.8	106.8
	キク	7	4. 0	2. 5	1.7	1.8	1. 7	1. 5	1.5	1.5
		トズキ	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5
茶	÷		83	37. 7	39. 0	38. 0	34. 5	33. 4	33. 4	27.8
葉	たに	ばこ	32	7. 3	8. 7	7. 3	7.2	7	_	_
괕	産									
	肉	用牛	_	6, 28 0	5, 680	5, 110	4, 700	4, 100	4, 540	4, 470
		繁殖	_	2, 400	2, 110	1,800	1,710	1,760	1,670	1,600
		育 成	_	340	218	168	179	1,080	1, 260	1, 320
		肥育	_	2, 110	1,950	1,740	1, 480	1, 100	1,610	1, 450
	乳	用牛	_	93	117	88	97	90	90	110
		育成・子牛	_	8	19	18	12	10	10	20
	養	豚	_	11, 300	10,800	6, 390	7, 440	6,860	6, 300	6, 240
	養	鶏	_	594	576	588	274	549	547	532
		ブロイラー	_	502	492	511	274	492	483	480

※H27年~は市町村報告、統計、野菜生産出荷実績及び市町村別家畜飼養頭羽数など

[※]ホウレンソウは延べ面積

[※]H27養鶏はブロイラーのみ記載

第2 地域農業の展望および普及指導活動の基本的な考え方

1 地域農業の展望

管内の農地は、沿海地域から中山間地域まで広がっており、水稲に畜産、野菜、果樹、茶などの多様な品目を組み合わせた複合経営が展開されている。また、国内有数の企業が立地する消費地でもあり、地域内消費も見込まれることから、地元市場や直売所への出荷を中心とした都市近郊型消費も営まれている。

このため、担い手の確保とともに、地域の特徴を活かした産地の育成と栽培及び経営管理技術向上により、農家所得の安定向上を図っていく。

1)農業の担い手の展望

近年、地域や集落では、農家数の減少や高齢化等により担い手が不足しており、産地を維持するためには、新規就農者の参入など、担い手の育成確保を図るとともに、経営能力向上に向けた取組を支援し、将来にわたって地域農業を牽引する経営体を育成する必要がある。

このため、農業後継者をはじめ、新規就農者、農業法人等の就農者など多様な担い 手の参入が円滑に行えるよう、就農相談から技術指導、経営安定・定着まで関係機関 団体とともに、一体となって支援していく。特に、経営改善に自らチャレンジする経 営体を育成するため、宮崎方式営農支援体制による各種研修を実施しスキル向上を図 る。

また、地域農業を維持していくには、集落営農組織の存在が不可欠であるため、育成、定着させ、地域農業を維持していく必要がある。

さらに、次代を担う青年農業者については、SAP組織や各機能集団など、組織活動への支援により経営管理能力を備えた経営主として育成していく。

一方、経営体の継続的な雇用による体質強化を図るため、定年帰農促進や農福連携も含めた労働力確保の取組を推進し、労働力の需要と供給を結ぶマッチング体制の構築に繋げる。

2) 農業生産の展望

主要品目であるブランド認証品目のたまねぎや中山間地域で有望な品目となっているシキミについては、収量、品質の向上等、引き続き安定生産に取り組み生産振興を図る。また、いちごやきゅうり等の施設野菜について、栽培面積の拡大や栽培技術の向上を行い産地力の強化を図る。

さらに、平成30年産から米政策転換が図られた水田営農については、主食用米の高品質安定生産に努めるとともに、水田フル活用の視点から野菜等の高収益品目や飼料用稲等を組み合せたベストミックスの推進により収益の向上に努める。

管内において生産額の最も多い肉用牛については、担い手の確保や規模拡大に加え、 飼養管理技術の向上により、産地の維持に努める。

また、鳥獣被害については、防護柵等の導入により被害は減少しているが、地域で 一体となった対策に取り組み、生産の安定に努める。

(1) 水稲

水稲については、稲作研究会を主体として地域での講習会の開催や展示ほの設置等による新しい資材や施肥技術の導入、飼料用稲、飼料用米の作付を推進し、品質の向

上や栽培面積の維持を図る。

また、無人航空機による防除の推進については、使用農薬の選定や病害虫発生予察情報に基づき、無人航空機の防除の推進及び農薬展示ほの設置等を行い、無人航空機の活用を検討することで防除面積の拡大と病害虫防除の省力化を図る。

(2) 野菜

たまねぎは、早進化技術の導入により出荷時期の早進化を図るとともに、施肥・防除の徹底により収量・品質向上を図る。また、機械化体系の検討及び除草技術導入を図ることで規模拡大を進める。さらに、研修会を開催し、新規就農者及び若手生産者の資質向上を図る。

新たな品目のスナップエンドウは、施肥管理および病害虫対策の徹底を行うことで収量及び品質を向上させる。また、新規生産者への重点的な指導を行うことで、栽培技術の向上及び定着を図る。

(3) 果樹

温州みかんは、隔年結果是正による生産量の安定化を図るため、適正施肥の実践に向けた支援活動の他、隔年結果対策技術展示ほを設置し、隔年結果対策推進を図る。また、品質向上のため、近年増加傾向にある浮皮軽減を図るため、展示ほの設置や推進を図る。

ももは、核割れの発生が少なく果実重や果実糖度が高い優良品種の導入を図る。 かきは、適正防除の推進を図るとともに、作業省力化の取組を推進する。また、今 後の産地維持に向けた検討会を内外部リーダー等で実施する。

(4) 花き

シキミは、アザミウマ類の発生消長調査や施肥方法の検討、立ち枯れ対策に取り組み、収量および品質の向上を図る。また、担い手確保対策の推進、若手生産者の基本技術の早期修得および経営管理能力の向上を図る。

(5)特用作物

茶は、品質向上に向けた各種品評会への挑戦、 高品質茶産地を目指したブランド「釜王」への取組推進、香味茶(紅茶)の品質安定化等に取り組む。

(6) 畜産

肉用牛繁殖成績の現状把握と改善および母牛の適切な飼養管理の徹底を図り、子牛生産の効率を向上させ所得向上させる。また、適切な自給飼料づくりの徹底を図る。 飼料作物については、研修会及び現地指導を通して、作付け、サイレージ調整・給与 についての飼料生産体系の整備を図る。

(7)鳥獣被害対策

効果的な対策の実施のためには、集落住民を主体に関係機関を含めた全体での継続的かつ総合的な対策が重要である。これまでの取組の結果、7つのモデル集落では自主的な鳥獣被害対策が行われるようになった。今後は、鳥獣被害から住民自らが守れる対策がとれるようにこれらのモデル集落での事例を活用しながら日頃の普及活動の中で啓発活動を行っていく。

また、正しい鳥獣被害対策が地域内に浸透するように鳥獣被害対策リーダー研修を行い、住民の知識習得や鳥獣被害対策の実践を関係機関と連携しながら行っていく。

2 普及指導活動の基本的な考え方

平成27年4月の国の協同農業普及事業の運営指針の改正を受けて、県では同事業の実施方針を改正するとともに、平成28年度から令和2年度の5カ年を期間とする普及活動計画を策定して推進することになった。また、第七次宮崎県農業・農村振興長期計画(平成28~令和2年・後期計画)を改定し、東臼杵管内では、「地域の人と産業の協働で築く、躍動する東臼杵の農業・農村」を地域農業・農村のめざす将来像と位置づけて、実現に向けた施策の方向性が示され、これに沿って各種の施策を展開することになっている。

また、普及センターではこれらの基本計画に基づいて、また平成28年3月に策定された延岡市農林水産業振興計画やJAの農業振興ビジョン等との連携、調整を図りながら、具体的な推進計画である「主要品目における産地戦略ビジョン」や「人・牛プラン」を策定し、それを実現するための普及活動計画を策定し、担い手づくり、産地づくり、魅力ある地域・農村づくりに取組むことにしている。

また、近年は、担い手確保・育成や6次産業化の推進に対応するため、営農相談窓口のほか新規就農相談窓口や6次産業化相談窓口を設置して、地域の様々な相談活動も実施している。

令和元年度の普及指導活動は、この平成28年度から令和2年度までの5カ年計画と 令和2年度普及活動計画に基づいて活動を展開することにしている。

第3 県の実施方針と普及指導活動計画との関連

県の実施方針	中課題	NO	- プロジェクト名
クトマンクへが色力が配し	1 11/1 /25	110	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
1. 儲かる農	①産地競争を勝ち抜く	基1	
業の実現	生産体制の構築		農業の維持・発展
	②本県農業の未来を切	基2	活力ある農村地域の確立のための
	り拓く多様な経営体		多様な担い手の育成と生産基盤の
	の育成		強化
	③農を核としてたフー	基3	産地戦略に基づくたまねぎ産地の
	ドビジネスの振興		維持・発展
		基4	産地戦略に基づくシキミ産地の維
			持・発展
		専1	肉用牛繁殖の維持・向上
		専2	延岡地区における施設野菜の生産
			振興
		専3	特色ある延岡果樹産地の維持
		専 4	経営発展を目指す農業者のスキル
			の向上
		専 5	延岡地域における6次産業化の支
			援
2. 環境に優	①環境保全型農業の展	専6	高品質・茶種のバリエーションを
しく気候変動	関	40	活かした釜炒り茶産地の育成
に負けない農	②気候変動に適応した		日日からに並みり赤座地の月成
業の展開	農業生産への取組支援		(基1)
人。 人	成木工座		
3. 連携と交	①地域条件を活かした		1
流による農村	0 - / 11 / 11 / 11 / 11		
地域の再生	< b		
	②鳥獣被害を受けにく		
	い農業の展開		(基1、2、3、4、専1、3、5、6)
4. 責任ある	①農畜産物の安全性確		
安全な食料の	保に向けた支援		
生産・供給体	②農作業安全対策の推		
制の確立	進		(基1、2、3、専1、2)

※(基:基本プロジェクト、専:専門プロジェクト)

※()内は、複数の実施方針に関連するプロジェクトNOを記載

Ⅱ 今年度の活動体制

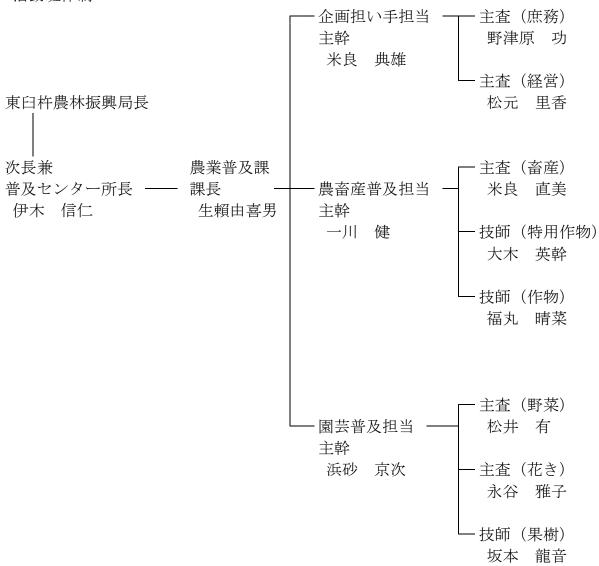
普及センターの推進体制および活動班体制

地域農業が抱える高度で多様な課題に対応するため、「企画担い手」、「農畜産普及」、「園芸普及」の3担当を配置し、専門活動の強化を図るとともに、各担当にまたがる5つの「基本プロジェクト」班と6つの「専門プロジェクト」班を設置して計画活動に取り組む。

また、担い手の育成や経営改善支援、情報の管理や提供を行うための「活動班」を 内部編成し、技術担当者と経営及び担い手担当者等の連携強化を図る。

あわせて普及指導活動を総合的かつ計画的に行うため、企画班会議・職員会議・担当会議・プロジェクト班会議を定期的に開催し、情報共有や活動方針の連携等総合的な進行管理を行う。

< 活動班体制 >



Ⅲ プロジェクト活動

プロジェクト活動一覧

NO	プロジェクト名	プロジェクト活動の概要	対象地域	頁
基1	水田フル活用によ る特色ある地域農 業の維持・発展	水稲は、管内における主要な品目であるが、米価の低迷等により、水稲栽培だけでは安定した経営が困難である。 そこで、水稲を基幹としたうえで、たまねぎ、大麦、飼料作物等裏作品目の作付けを拡大するなど水田栽培面積の維持を図る。また、水田の排水対策などの適正管理による品質・生産の向上を図るとともに、新品目の作付面積の拡大などにより水田利用率の向上に取り組み、収益性の高い営農体系を構築して延岡地域における農業集落の維持・発展を図る。	延岡市全域	14
基 2	様な担い手の育成	農業者の高齢化が急速に進んでおり、担い手不足と農機具更新などの負担の増加、農業従事者数の減少により集落や部会全体の生産性が低下している。 このため、地域の維持や就農者の受け皿となりうる営農集団、法人等を支援するとともに、継続的な雇用による経営体の体質強化を図るため、労働力確保に向けた取組を推進し、地域で農業を維持できる組織や経営体を育成する。	延岡市全域	22
基3	産地戦略に基づくたまねぎ産地の 維持・発展	延岡市を代表する品目であるたまねぎにおいて、関係機関一体となった産地戦略の取組をさらに進め、収量・品質・農家経営が向上し、産地として安定が図られることを目指す。 機械化体系の確立による省力化の推進による産地規模の維持・拡大を図る。また、新規就農者等の支援に引き続き取り組む。	延岡市全域	32

NO	プロジェクト名	プロジェクト活動の概要	対象地域	頁
基4	産地戦略に基づく シキミ産地の維持 ・発展	管内における主力品目となっているが、 立枯れ症や病害虫の発生、担い手不足等に より生産性の低下が懸念される。そこで、 新規就農者の受け入れ体制整備や若手生産 者の技術の向上を図るとともに、適正防除 や適正施肥の推進による収量および品質の 向上を図る。	延岡市全域	40
専1	肉用牛繁殖の維持 ・向上	1年1産に向けた繁殖成績向上のため、 繁殖巡回等を実施し、良質自給飼料給与を 含めた母牛の適切な飼養管理の徹底を図る。 また、発育良好な子牛を出荷するため、体 測の実施や飼養環境の改善による子牛の適 切な飼養管理の徹底を図る。	延岡市全域	47
専2	延岡地区における施設野菜の生産振興	施設野菜研究会を中心とした、施設野菜農家の生産安定を図ると共に、計画的な規模拡大を支援する。また、環境制御技術の向上による施設適正管理の実施を図り、反収・品質の向上を図る。	延岡市全域	53
専3	特色ある延岡果樹産地の維持	管内を代表する果樹品目である「もも」、「かき」、「普通温州みかん」について、果実品質の向上を図る。また、果樹産地の維持に向けた検討を生産者を交えて実施するとともに、果樹法人が早期に経営安定を図り、産地活性化の核となるための支援を実施する。	延岡市北方町	59
専4	経営発展を目指す 農業者のスキルの 向上	農家の集合研修体制が確立したことにより、新規就農者・女性・中高年・認定農業者各層に対して、経営マネージメントの能力向上を支援する。	延岡市全域	65

NO	プロジェクト名	プロジェクト活動の概要	対象地域	頁
専5	延岡地域における6次産業化の支援		延岡市全域	69
専6	高品質・茶種のバ リエーションを 活かした釜炒り茶 産地の育成	く、十分な所得の確保は厳しい状況になり	延岡市北方町	73

_	13	_
---	----	---

水田フル活動による特色ある地域農業の維持・発展

現状

管内の水田における作付 水稲1,048ha(早期34ha·普通期1,014ha) 飼料用稲(177ha)、飼料用米(63ha)など

水田における裏作物 たまねぎ(20ha)、二条大麦(19ha) 飼料作物(366ha)など

水稲(778戸)、二条大麦(4戸)、たまねぎ(116戸)

水稲栽培面積の維持

水田利用率の向上

普及計画における取組内容

水稲栽培面積の維持

- ○WCS・飼料用米での施肥体系の導入
- ○無人へリ利用推進による適正防除の実施

水田利用率の向上

- ○大麦の品質向上のための排水対策
- ○省力化に向けた大麦施肥技術の導入
- ○新品目の導入
- ○飼料作物の品質向上

目標とする姿

- ○飼料用稲や飼料用米の栽培面積拡大により水稲の栽培面積の維持が図られている。
- ○無人へリによる防除面積が拡大し、適正防除及び省力化が図られている。
- ○大麦の栽培面積拡大や品質向上が図られ、出荷・調整・保管体制が整備されている。
- ○地域にあった新品目の栽培面積が拡大し、水田の有効利用が図られている。
- ○新品目の検討・導入が進み、水田が有効に活用されてる。
- ○良質な飼料作物が栽培・供給され、水田が有効に活用されている。
- ○水田の利用率が向上することで、収益性が上がり経営が安定する。



水稲を基幹とした、収益性の高い営農体系の構築



延岡地域における農業集落機能の維持・発展

◎基本計画(H28~R2)

1 対象地域

延岡市全域

2 課題設定理由

水稲は、管内における主要な品目であるが、米価の低迷等により、水稲栽培だけでは 安定した経営が困難である。また、高齢化による担い手不足が懸念されている。

そこで、水稲を基幹としたたまねぎ、大麦、飼料作物等裏作品目の作付けを拡大することにより、収益性の高い営農体系を構築し、延岡地域における農業集落の維持・発展が図られる。そのために、水稲の安定生産及び品質向上への取組、転作品目及び裏作品目(たまねぎ、大麦、飼料作物等)の作付面積の拡大や品質・収益性の向上に取り組む。

3 現状

管内の水田(1,870ha)では、表作として水稲1,048ha(早期34ha・普通期1,014ha)、 飼料用稲(177ha)、飼料用米(63ha)、ソルガム等飼料作物(44ha)、露地野菜(59ha)など1,415haが作付けされている。また、水田における裏作物として、たまねぎ(20ha)、大麦(19ha)、飼料作物(366ha)、その他野菜(8ha)など415haが栽培されている。しかし、水田面積に対する利用率は表作で75.7%、裏作で22.2%と農地の有効な活用が図れていない。管内普通期水稲(ヒノヒカリ)の一等米比率は37.4%であり、気象条件や災害等の影響を受けやすい。主要な栽培品目における農家戸数は、水稲(778戸)、大麦(5戸)、たまねぎ(116戸)であるが、各品目とも高齢化に伴い戸数が減少している。

4 目標としている姿

飼料用稲や飼料用米の栽培面積拡大により水稲の栽培面積の維持が図られている。 無人へリによる防除面積が拡大し、適正防除及び省力化が図られている。

大麦栽培面積の拡大及び品質の向上が図られ、出荷・調整・保管体制が整備されている。

新品目の栽培面積が拡大し、水田の有効利用が図られている。 良質な飼料作物が栽培・供給され、水田が有効に活用されている。 水田の利用率が向上することで、収益性が上がり経営が安定する。

水田表作作付け面積 1,430ha(+18ha) 基準年水田面積に対する利用率76.5%(+1%) 主な栽培品目:水稲997ha(-51ha)、飼料用稲200ha(+23ha)、飼料用米106ha(+43ha)、 ソルガム等飼料作物44ha(+3ha)、その他野菜等71ha(+12ha) など

水田裏作作付け面積 461ha (+46ha) 基準年農地面積に対する利用率24.6% (+2.4%) 主な栽培品目:イタリアン360ha (+21ha)、えん麦29ha (+2ha)、二条大麦30ha (+11ha)、

たまねぎ31ha(+11ha)、その他11ha(+1ha)

5 到達目標

項目名	基準(H26)	目標(R 2)
水田における延べ作付面積	1,830ha	1,891ha

6 目標としている姿の実現にあたっての問題点

- ① 水稲の栽培面積が減少傾向にあり、飼料用稲、飼料用米等の作付推進による水稲栽 培面積の維持・拡大が必要であるが、収量や品質が安定していない。
- ② 高齢農家や兼業農家が多く、自力での畦畔管理が困難になりつつある。
- ③ 飼料用稲の収穫時期が集中し、収穫作業の遅れが見られる。
- ④ 台風による冠水等により良質な飼料用稲の収穫ができない。
- ⑤ 高齢農家や兼業農家が多く、自力での病害虫防除が困難になりつつある。
- ⑥ ニーズに合った品質とするための、大麦の品種特性の把握や栽培技術が確立されていない。
- ⑦ たまねぎ以外の品目が少なく、地域に応じた新たな品目の導入が進んでいない。
- ⑧ 飼料作物が必要量確保できていない。
- ⑨ 飼料作物の生草およびサイレージの品質にバラツキがあり、安定した供給に結びついていない。
- ⑩ 地域に応じた輪作体系が構築されていないことから、水田の利用率が低い。
- ⑩ 輪作体系における収益性が検討されておらず、新品目の導入が進んでいない。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

1 自及际恩ことの天旭中皮	40 & O	PA/N	1 124.1			
普及課題名		美	施年	叓		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H26現状 → R2目標)						
水稲栽培面積の維持						・飼料用稲・飼料用米での施
* ①、②、③、④、⑤					_	肥体系の導入
水稲(主食用米、飼料用米、						・作業省力化の推進
飼料用稲) 作付面積の拡大						・作期分散の実施
$(1,288ha \rightarrow 1,303ha)$						・無人航空機の利用推進によ
						る適期防除の実施
水田利用率の向上						・品質向上のための排水対策
% 6、7、8、9、⑩、⑪					L	・省力化に向けた施肥技術の
基準年の水田面積に対する	7				Γ	実践
水田利用率の向上						・新品目の導入
$(97.9\% \rightarrow 101.1\%)$						・飼料作物の品質向上

◎年度計画(R2)

NO	基1	水田フル活用による特色ある地域農業の維持・発展
班長・	副班長	(班長)農業普及課 一川 (副班長)農業普及課 浜砂
班員		農業普及課 米良(典)、松元、松井、米良(直)、大木、福丸

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

講習会や展示ほ設置等を通じた作付け推進や栽培管理指導により、飼料用米の作付面積は拡大したが、気象災害や害虫の影響により飼料用米の収量が減少したほ場がみられた。日照不足や登熟期の高温等に対応した栽培管理や病害虫の適期防除の指導をしていく必要がある。

大麦について、排水対策展示ほにおいて、溝切りによる収量の増加が見られた結果を 周知し、生産者の理解が深まった。 2名の生産者で作付けが行われているが、今後も大 麦の需要があるため、収量・品質の向上と面積拡大の対策を推進する必要がある。

飼料用稲について、作付けやサイレージ調整についての研修会を実施した。早進化技術の導入について、昨年は8月の大雨による浸水や倒伏の被害にあったが、引き続き導入について進めていく必要がある。

新品目の導入では、外部法人によるキャベツ栽培の定着へ向けた支援を進めると共に、 展示ほ設置等を通して、定着できる品目について引き続き検討する必要がある。

(2) 今年度の主な取組内容

飼料用米の適正な施肥体系の導入

台風による河川氾濫地区における飼料用稲の早期作型の推進

省力化のための畦畔管理化技術及び無人航空機による防除の推進及びシャッフル会への支援。

大麦の品質向上、増収対策としての排水対策や施肥技術の推進。

ベストミックスに対応した新品目の導入・定着に向けた検討。

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

	(機) (関) (関) (関) (関) (関) (関) (関) (関) (関) (関				:心口、	U . Æ	诱义饭	,
		具体的な	市町	JΑ	普及	試 験	民間	その
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		他
水稲栽培面	飼料用稲・飼	飼料用稲、飼料	\circ	0	\circ			
積の維持	料用米の適正	用米栽培講習会						
	施肥体系の導	展示ほ、定点の	\bigcirc	\bigcirc	0			
	入	設置						
	作業省力化の	試験ほ、展示ほ	0	0	0			
	推進	の設置						NOSAI
	作期分散の実							
	施							
	無人航空機の	防除スケジュー		0	0		\circ	_
	利用推進によ	ル検討						
	る適期防除の	防除効果の確認		0	\circ		\bigcirc	
	実施	病害虫発生状況		\bigcirc	0			
		調査						
水田利用率	品質·収量向	栽培技術講習会	\circ	0	0			
の向上	上のための排	展示ほの設置	\bigcirc	\circ	0			
	水対策及び施	収量・品質調査	\bigcirc	\bigcirc	0			NOSAI
	肥技術の導入	先進地視察		\bigcirc	0			
	新品目の導入	新品目の検討	\circ	0	0			
		展示ほの設置	\circ	\bigcirc	0			
		栽培講習会	\circ	0	0			

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活	動項目
	集団(戸数)		活動指標	計画
水稲栽培面積 の維持	延岡地域稲作 研究会 (35戸)	飼料用稲・飼料用米の適 正な施肥体系の導入	米栽培講習会の開 催	
			展示ほの設置	2カ所
		作業の効率化	畦畔管理省力化技 術実証ほの設置	3カ所
		作期分散の実施	飼料用稲早期作型 の検討	1カ所
	無人へり防除法人(1法人)	無人航空機の利用推進に よる適期防除の実施	防除スケジュール の検討	2回
			防除効果確認	5ヵ所
			病害虫発生状況調 査の実施	5ヵ所
水田利用率の向上	JA延岡加工 原料部会きら		栽培講習会の開催	1 回
	り (2戸)	品質・収量向上に向けた 施肥技術の実践	追肥体系・排水対 策展示ほの設置	2カ所
			生育・収量・品質 調査の実施	6カ所
	参入法人 (1法人)	新品目の導入(キャベツ)	11111	2回
			法人との打合せ	2回
			栽培講習会	1回

	7 時期別	川活動計画	8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12 月	1~3月	成果指標	実績 (R元)	計画 (R2)
	(栽培管理)		(育苗管理)	·水稲(主食用米、 飼料用米、飼料 用稲)作付面積	220ha	230ha
	(展示ほ設置	・現地検討)				
←	(実証ほ設置	・生育調査・	現地検討)			
≪(展示ほ設置		(飼料分析)				
⟨スケジュー	ー ン ル検討)	>		無人航空機によ る管内延べ防除 面積	1, 138ha	1, 200ha
	(効果確認調 ≪ (病害虫発生	査及び情報提) → → 状況調査)				
	(栽培管理)	-VVDLIMA ELA		大麦の栽培面積	21ha	21ha
← →	<	· ←	>	排水対策実施農	2戸	2戸
(展示ほ設置)<	(実績検討)	(展示ほ設置)(生育調査)	>	家数追肥実施農家数	2戸	2戸
(水重寸胸且)		(←→	キャベツ栽培面積	4 ha	8 ha
実績・計画検討	栽培講習会		現地巡回指導			

_	21	_
---	----	---

基2 活力ある農村地域の確立のための多様な担い手の育成と生産基盤の強化

【活力ある農村地域の確立のための多様な担い手の育成と生産基盤の強化】



基2 活力ある農村地域の確立のための多様な担い手の育成と生産基盤の強化

◎基本計画(H28~R2)

1 対象地域

管内全域

2 課題設定理由

管内の農業者の高齢化が急速に進んでおり、担い手不足と農機具更新のための負担増加により、集落や部会全体の生産性が低下している。

また、零細な農地で生産する農業者が多く、生活を維持するまでの収入を得られない ことから、個人経営による就農者の確保は難しく、地域で担い手の核となる持続的経営 体(集落営農等)を育てることで、就農者の受け皿となりうることが期待できる。

しかし、水稲を含めた穀類の価格が低下し、稲作依存の強い生産者の所得の低下が懸念されるため、付加価値の高い品目への転換も含め、経営基盤を強化しながら育成することが重要である。

3 現状

管内経営は水稲を経営の中心とした農家が多く(52.2% 県平均29.1%)、46.4%が販売額50万円未満、1ha未満の経営体の占める割合が72.9%(県平均51%)と高い。管内農業者の高齢化率は高く(65才以上75%)平均年齢は69.5才である。個人では今後、大きな投資による経営の改善や、農地の維持が難しい。

水稲の受託作業を行う営農集団が8つあり、20年以上存続し地域の水田を守ってきた がオペレーターの高齢化、委託者の増加で今後機能の継続が危ぶまれている。

集落営農のモデルとなる組織がなかったことから、これまで組織化の動きがなかったが、危機感を高め、集落営農設立に向けて動き出す集落が出てきた。

4 目標としている姿

営農集団等を核とした経営体組織が育成され、農地を集約し効率的な水田利用がされている。また農業機械の共同利用により農家の所得が向上し、集落営農が定着することで、持続的な経営体として地域経済の基盤となる。

これらの経営体が地域の持続的経営の先進モデルとして育成され、新たな就農者の受け皿となり就農者が増加している。

5 到達目標

項目名	基準(H26)	目標(R2)
集落営農組織化数	2	5

6 目標としている姿の実現にあたっての問題点

- ①この地域では水田を中心とした考えが強く集落営農を進める場合においては、水稲の 価格低下が直接影響して経営基盤が脆弱化するおそれがある。
- ②副業的農家数は全体の57%を占め、農地も零細であることから地域による農地集積が進みにくい。
- ③高齢化による経営規模の縮小がある他、品目転換や新たな投資はリスクが高くなるため進まない。
- ④継続的な雇用を可能とするためには、高収益作物の導入や規模拡大など経営体の体質 を強める必要がある。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

1 百人味趣しての美胞中度	40 8 C	アベント	1 13/1			
普及課題名		美	医施 年	变		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H26現状 → R2目標)						
集落営農組織の育成 (2 → 5)						集落営農推進の取組強化
①、②、③、④集落営農組織ができるこ			\			営農計画の策定
とで、農業により地域を維持発展させる基盤となる。						新品目の導入
						集落営農組織の経営基盤強化
				,		法人化検討
労働力確保体制の整備 (0 → 1) ④						労働力確保に向けたマッチン グ体制構築

◎年度計画(R2)

ΝO	基 2	活力ある農村地域の確立のための多様な担い手の育成と生産基盤の 強化
班長・	副班長	(班長)農業普及課 生賴 (副班長) 松元
班員		米良(典)、一川、米良(直)、大木、福丸、浜砂、松井、永谷、坂本

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

経営安定に向けた高収益作物の検討・試験ほの設置を行った。ジャガイモ、スイートコーン等については、適応性、収益性について成果が得られたが、ショウガ等一部の品目については、気象災害や鳥獣被害により期待した成果は得られなかった。

曽木集落営農組合については、女性組織「たんぽぽ農会」が発足し、女性中心の野菜づくりがスタートした。また家田地区営農集団については、鳥獣害対策の取組で組織内の連携意識の向上が見られ、電柵の管理など自主的な活動が行われている。

(2) 今年度の主な取組内容

持続的経営を行うには経営安定のための高収益作物の導入が必要であるため、水田高度利用産地育成支援事業を活用し、鳥獣害対策も含めた実証ほ等を引き続き設置して、導入品目の検討を行う。また、米対策を十分に活用できるよう関係機関と連携して農地の集積・集約の検討を進める。

また、経営体の継続的な雇用による体質強化を図るため、マッチングサポート担当者会が主体となり、延岡市労働力確保対策協議会の労働力確保に向けた取組を誘導・支援し、労働力の需要と供給を結ぶマッチング体制の構築に繋げる。

2 関係機関の役割分担 (◎:実施者、○:連携支援)

普及課題名	普及事項	具体的な 活動項目	市町村	ЈА	普及センター	試 験研究	民間	そ <i>0</i> .)
集 落 営 農 組 織の育成	営農計画の策 定	検討会の開催	©	0	0				
	新品目の導入	導入可能な品目 選定のための実 証ほの設置	0	0	©				
		導入品目の作付 け促進	0	0	0				
		鳥獣害対策支援	0	\circ	0				
		営農計画の作成 支援及び栽培技 術指導	0	0	0				
		検討会の開催	0	\circ	0				
		経営技術指導	0	0	0				
		農地集積に向け た支援	0	0	0				
		鳥獣害対策支援	0	0	0				

(◎:実施者、○:連携支援)

普及課題名	普及事項	具体的な 活動項目	市町村	J A	普及センター	試 験研究	民間	そ他	0)
労働力確保 体制の整備	向けたマッチ	マッチングサポ ート担当者会	0	0	0				
	ング体制構築	労働力人材育成 研修会	0	0	0				
		施設外就労見学 ・体験会	0	0	0				
		労務管理研修会	©	0	0				

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活	動項目
0 自汉际应	集団(戸数)	0 自及事項	活動指標	計画
集落営農組織 の育成	家田地区営農集団	営農計画の策定	検討会の開催	4回
	(6戸)	新品目の導入	導入可能な品目選 定のための実証ほ の設置	4カ所
			導入品目の作付け 推進	3品目
			鳥獣被害対策支援	4回
	曽木地域集落 営農組合 (71戸)	集落営農組織の経営基盤 強化	営農計画の作成支 援及び栽培技術指 導	2回
	農事組合法人曽木		検討会の開催	6 回
	(8戸)		経営管理指導	4回
			農地集積へ向けた 支援	2回
			鳥獣被害対策支援	3回

7 時期別活動計画			8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)
・ 作付け計画 の検討	検討会	検討会	<u></u> 次年度計画 検討・策定	営農計画の作成 数	1	1
《 	生育・収証		 実証ほの設置	検討品目数 新品目の導入	4 3	4 2
✓ > 生育·収量調査	《 生育	実績検討	実証ほ設	面積拡大品目数 置		3
€ 電	 	被害状況調	 	点検実施回数	4	4
▼ 作付け体系 の検討	技術指導	技術指導	水年度計画 検討・策定	営農計画の作成 数	1	1
検討会		検討会	検討会			
ペープ 年度計画の 策定	₹記帳実施	>	< > > 決算まとめ	会計管理の改善 数	1	1
検討会	←	検討会		農地集積率	4.5%	25%
展研修会	示ほ調査	< > 展示ほ設置	< > 展示ほ調査	展示ほの点検実 施回数	一回	3回

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活動項目	
集団(戸数)			活動指標	計画
労働力確保体 制の整備		労働力確保に向けたマッ チング体制構築	マッチングサポート担当者会の開催	4 回
	励		労働力人材育成研 修会支援	2回
			施設外就労見学・ 体験会支援	3回
			労務管理研修会支 援	1 回

7 時期別活動計画			8 集団の到達目標		
7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)
検討会	検討会	検討会	マッチング体制 の整備	0	1
	←研修会	研修会			
	♥ 見学・	体験会			
		│ │ 研修会 →			
	7~9月	7~9月 10~12月 検討会 検討会 ~ 研修会	7~9月 10~12月 1~3月 検討会 検討会 検討会 [*] 一 研修会 研修会 研修会 **	7~9月 10~12月 1~3月 成果指標 検討会 検討会 検討会 一月学・体験会	7~9月 10~12月 1~3月 成果指標 実績 (R1) 検討会 検討会 マッチング体制 の整備 研修会 研修会 見学・体験会

_	31	_

産地戦略に基づくたまねぎ産地の維持・発展

延岡のたまねぎ

生産者121戸、面積24.9ha、 生産量696t、出荷額7,786万円(平成28年産) で地域を代表する品目で、水稲の裏作として作付け

問題点

- ・収量が低い・2月中旬までの出荷率が低い(葉つき)
- ・規模が小さい・担い手不足

普及事項

収量、品質の向上

- ・産地分析や適正管 理等による収量UP
- 早期出荷栽培技術 の普及

面積拡大

- ・除草剤散布機の 導入
- •農地集積
- •作業機の検証

担い手対策

- •作付け推進
- ・若手及び新規生産者への重点指導











目指す姿

収量及び品質の向上により農家経営が改善され、農地集約及び機械導入により面積拡大が図られ、産地の維持・発展が図られている。

たまねぎの販売額

現状(H26年産) <u>8,386万円</u> ⇒ 5年後目標 <u>10,530万円</u>

基3 産地戦略に基づくたまねぎ産地の維持・発展

◎基本計画(H28~R2)

1 対象地域

延岡市全域

2 課題設定理由

当管内では主要品目において、関係機関一体となって産地戦略に基づいた生産振興をすすめている。

たまねぎは地域を代表する品目であり、平成25年から産地戦略に基づき、出荷時期の 早進化対策や規模拡大に取り組み、さらなる産地の発展をめざしている。

3 現狀

延岡市のたまねぎは、生産者132戸、作付面積21.5ha、生産量427t、出荷額5,012万円 (H30年産) で地域を代表する品目であり、水稲の裏作として作付けされている。 超早出し産地として確立しており、みやざきブランドの認証を受けている。

葉つきたまねぎ (1.6t/10a)、切りたまねぎ (3.1t/10a) とともに、10aあたりの収量が低く、また、葉付きたまねぎは単価の高い 2 月中旬までの出荷率が31% と低い。

作付面積は、1戸当たり約20aと規模が小さく、機械化が進んでいない。

生産者数は近年横ばいながら、60代、70代が部会員の60%以上を占め高齢化している。

4 目標としている姿

高い育苗技術により安定的な苗生産が行われ、防除暦等の活用による適正な栽培管理が実施されている。受委託体制を活用した機械化体系による面積拡大が図られ、農地の集積が進むことでたまねぎの収量・品質・農家経営が向上し、産地として安定的に1億円以上の販売額となっている。

5 到達目標

項目名	基準(H 2 6)	目標(R 2)
出荷販売額	8,386万円	10,530万円

※目標は令和2年産(令和2年1月~6月)の実績

- ① 葉付きたまねぎの出荷のピークは2月下旬~3月上旬になっており、高値が見込まれる2月中旬までの出荷が出来ていない。また、販売単価の底上げが必要。
- ② 収量が低い(トップゴールド: 1.6 t / 10 a、切り玉 (甲高): 3.4 t / 10 a)。原因としては「適期は種及び定植ができていない (気象変動等に左右され、作業が遅れる)」、「適期防除ができていない」など。
- ③ 1戸あたりの栽培面積が小さい。葉付きは収穫・調整、切り玉は除草、収穫等に多大な労力を必要とするため、規模拡大が進まない。また、機械化が進んでいない(移植機10台程度のみ)。
- ④ 生産者数は近年120名前後で横ばいだが、高齢化及び担い手不足の問題がある。また、新規生産者は収量が低く、面積を拡大できていない。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名			施年	度		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H28現状 → R2目標)						
収量、品質の向上						
①、②					ightharpoons	育苗技術の向上及び苗供給体
数量及び単価の向上	7					制の強化
(現状						栽培の適正管理による早期出
数量698 t 単価112円/kg						荷と収量の向上
→目標						
数量970 t 単価120円/kg)						
農地集約及び機械導入によ	7				7	収穫機導入による省力化
る面積拡大				1	">	
3, 4	7					直播き栽培の現地実証
作付面積の増						
(現状 24.9ha						
→目標 28.0ha)						
新規生産者の定着						栽培の適正管理による早期出
4	7				Γ	荷と収量の向上
生産者数						
(現状 121戸						
→目標 121戸)						

NO 基1	産地戦略に基づくたまねぎ産地の維持・発展
班長・副班長	(班長) 農業普及課 松井 (副班長) 浜砂
班員	農業普及課 米良(典)、松元、一川、福丸

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

全体及び地区別講習会や個別巡回等で、適切なほ場管理等を指導したことで、土壌 分析結果による施肥や防除暦を活用した適期防除が広がっている。また、過去の展示 ほで検討した機能性マルチ(グリーン、暖暖)及び、除草剤散布機の導入が進んだ。

また、機械化体系の確立については、他県事例を参考にしながら収穫機械実演会を 実施し、機種選定を進めている。また一方で、収穫作業に関する労力支援として、農 福連携作業体験会を行い、福祉事業所による収穫作業のマッチングが成立した。

今後、高齢化が進み1戸当たり作付面積の減少傾向は避けられない状況から、定植・収穫作業に関する労力支援や、作業受託体制の早期構築へ向けて具体的な検討を進める時期が来ている。

(2) 今年度の主な取組内容

育苗期の適正管理による健全な苗生産体制を強化する。また、地域の施肥設計の見直し等を行うと共に、定植後の適正管理の徹底による早期出荷により、たまねぎの収量・品質・農家経営を向上させる。

また、面積拡大に向け、直播栽培試験を引き続き行い当地区に合った奨励品種の選定を行う。また試験成績をまとめマニュアル化を行うことで、大規模栽培が可能な機械化体系の確立を進めていく。

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

	美沙汉司刀担		((○ . 浬1	乃人议	,	
		具体的な	市町	JΑ	普及	試 験	民間	そ	0
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		他	
収量、品質	育苗技術の向	育苗技術講習会の	\circ	\bigcirc	0				
の向上	上及び苗供給	開催							
	体制の強化	育苗巡回の実施	\circ	\bigcirc	0				
	40 14a - 24c 84c							 	
		全体及び地区別栽	\circ	0	0				
		培講習会の開催							
	, .	現地巡回による適工祭用の鉄度	0	0	0				
	向上	正管理の徹底						ブラ	d S
		防除暦の作成 販売促進活動	0	0	0				/ [
		双分的处理位到		0					
農地集約及	収穫機導入に	収穫機の検討	0	0	0		0		
び機械導入		実証展示ほの設置		0	0				
による面積		受委託体制の検討	0	0	0				
拡大									
	直播き栽培の	実証展示ほの設置	0	0	0	0			
	導入	作業マニュアルの	\circ	0	0	0			
		作成							
			_						
		現地巡回による適	\circ	\bigcirc	0				
の定着	理による早期	正管理の徹底							
	出荷と収量の								
	向上								

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活	動項目
	集団(戸数)		活動指標	計画
収量、品質の 向上	J A延岡玉ネ ギ部会の中の 重点対象者 (16戸)	育苗技術の向上及び苗供 給体制の強化	育苗講習会 苗床巡回の実施	1回 2戸
		栽培の適正管理による早期出荷と収量の向上	全体栽培講習会 地区別栽培講習会 巡回指導	1 回 2 回 5 回
農地集約及び 機械導入によ る面積拡大	_	収穫機導入による省力化	収穫機の検討 実証展示ほの設置 受委託体制の検討	1回 1箇所 3回
		直播き栽培の導入	実証展示ほの設置 作業マニュアルの 作成	1 箇所 1
新規生産者の 定着	新規生産者(概 ね3年未満) (14戸)	栽培の適正管理による早 期出荷と収量の向上	新規生産者への個 別巡回指導	3回

	7 時期別	川活動計画	8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R元)	計画 (R2)
	◆ (育苗講習会	→ ・苗床巡回)		高温期対策実施農家数	2戸	2戸
<	(栽培講習会)	(地区別研修会)		トップ ゴールドの2 月までの出荷率 50%以上農家数	2戸	2戸
(暦作成)	(栽培講習会)	(現地	上 指導) 	目標収量達成農 家数(切り玉3. 5t/10a以上)	7戸	2戸 (9戸)
(検討会)	(経費試算)	≪ (実証ほ設置)	>	機械収穫実施面積	0 а	3 O a
	(検討会)					
(成績検討)	(計画検討)	(現地	実 証)	直播栽培奨励品 種の選定	1品種	1 品種 (2 品種)
	(案作成)	⋖ (内容	検 討)	直播栽培現地マニュアルの作成・検討	_	1
	(実績検討)	(現地	十 指導)	目標収量達成農 家数(切り玉3. 0t/10a以上)	0戸	2戸

_	39	_

産地戦略に基づくシキミ産地の維持・発展

延岡のシキミ

生産者数52戸、面積約100ha、生産量229 t、販売額1.6億円 地域を代表する品目で、主に北川町の中山間地域で栽培。



問題点

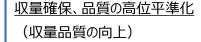
- ・生産者の高齢化による担い手確保が急務である。
- ・生産者の高齢化による生産性の低下。
- ・優良系統供給の農家間格差、サビダニ等による収量および品質低下。



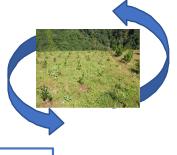
取組内容

産地を維持させるための仕組みづくり

- ・新規就農者の経営安定化に向けた支援
- ・新たな担い手確保のための体制整備



- ・優良系統の導入推進
- ・収量、品質向上のための適正防除推進







目指す姿

- ・就農希望者の研修受け入れから就農基盤の準備、早期の経営安定化のための支援体制が整備され、新たな担い手が産地を支えている。
- ・収量、品質が安定し、産地の維持・発展が図られている。

販売額

現状(H26):1.6億円 → 目標(R2):2億円

<u>基4</u> 産地地戦略に基づくシキミ産地の維持・発展

◎基本計画 (H 2 8 ~ R 2)

1 対象地域

延岡市 (管内全域)

2 課題設定理由

シキミは、管内における主要な品目であり、産出額2億円をめざす産地の育成を図るためには、収量の安定対策、新規就農者に対する支援、経営安定対策の支援に取り組む必要がある。

生産者の高齢化により産地の維持が難しい状況にあり、作業受委託についての要望がある。

また、新規就農者に対する研修から就農基盤の整備等、早期の経営安定化のための環境が十分に整っていないことから、新たな担い手確保のためには体制整備に取り組む必要がある。

3 現状

- ・北川町で栽培されるシキミは、販売先からは「北川ブランド」として確立している。
- ・生産者50戸、作付面積約100ha、販売額175百万円である。
- ・生産者の3割が70歳以上と高齢化が進んできている。
- ・近年、他産業からの新規就農者や研修生が微増している。

4 目標としている姿

シキミの収量・品質が向上し、地域の経済基盤やシキミ産地としての安定が図られている。

就農希望者の研修受け入れから、就農基盤の準備、早期の経営安定化のための支援体制が整備され、新たな担い手が産地を支えている。

5 到達目標

項目名	基準(H 2 6)	目標(R 2)
販売額(円)	1.6億円	2億円

①高齢化が進んでおり、営農を辞める生産者が今後増加していくと予想されることから 産地規模の維持が難しい。また、急傾斜地で栽培されているため、防除、除草作業等の 管理が困難であることから生産性の低下が懸念される。

新規就農者の確保については、研修受け入れ、就農基盤の準備、早期の経営安定化のための環境が十分に整っていない。

②優良系統供給の農家間格差、サビダニ等による品質および収量低下、立ち枯れ症発生により収量・品質が低下している。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名	実施年度					普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H26現状 → R2目標)						
産地を維持させるための仕 組みづくり						①新規就農者の早期の経営基盤確立 ②新たな担い手確保のための 体制整備
収量確保、品質の高位平準化(収量品質の向上) JAの出荷数量 (225t→280t)						①シキミ優良系統の導入 ②収量、品質向上のための適 正防除、適正施肥の実施

NO	基5	産地戦略に基づくシキミの産地の維持・発展				
班長・高	副班長	(班長)農業普及課 浜砂 (副班長)農業普及課 永谷				
班員		農業普及課 米良(典)、松元				

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

平成25年に実施した部会員へのアンケートでは、防除体制等の作業委託についての要望の声が上がっており、平成29年度に作業委託の現状や意向についてのアンケート、労力支援システムの事例収集を行ったところ、共同作業の意向はあるものの、作業参加については難しいとの意見が多かった。

青年給付金を活用して経営開始した3名に対し、就農経過の聞き取りと経営実績の検討を行った。経営基盤を安定させるためには、安定して継続収穫できる園地が確保・整備されないと今後の新規就農者の受け入れが厳しいことが分かった。

春の出荷が落ち込むため、防除実態から検討した冬春推奨防除技術の推進を図った。 また、アザミウマ類の被害が増加していることから発生消長に基づく防除方法について 推進を図った。

樹勢維持のためには施肥の改善を行う必要があることから、持ち出し量調査や展示ほ 設置等に取り組んだ。

(2) 今年度の主な取組内容

産地を維持させるための仕組みづくりを確立するため、後継者不在の高齢生産者への 訪問意向調査を実施し、現状把握・分析を進める。その上で、各関係機関と産地維持に 向けた方向性を協議し、共有化を図る。

また、若手生産者の技術向上に向け学習会を行う。

収量確保、品質の高位平準化のためには優良系統のさらなる導入推進および適期防除、 適正施肥が必要であることから、引き続き優良系統苗の導入に向けた取り組みおよび適 正防除、適正施肥について関係機関と連携しながら進めていく。 2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

普及課題名	普及事項	具体的な 活動項目	市町村	ЈА	普及センター	試験 研究	民間	その他
	①新規就農者 の早期の経営 基盤確立	・就農状況調査 ・経営実績検討 ・基礎技術研修会	0 0	0 0 0	0			
	②新たな担い 手確保のため	・外部リーダー会の開催	0	0	0			
	の体制整備	・訪問調査の実施	0	0	0			
収量確保、 品質の高位 平準化(収	①シキミ優良 系統の導入	・定植方法の試験ほ設 置	0	\bigcirc	0			
		・講習会における適正 防除の推進	0	\circ	0			
	の適正防除、 適正施肥の実 施			0 0 0	0 0			

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活動項目		
	集団(戸数)		活動指標	計画	
産地を維持さ せるための仕 組みづくり	シキミ部会 (50戸)	①新規就農者の早期の経 営基盤確立	・就農状況調査 ・経営実績検討 ・基礎技術研修会	2回 2回 5回	
		②新たな担い手確保のた めの体制整備	・外部リーダー会の開催	3回	
			・後継者不在者への訪問調査の実施	4 支部	
収量確保、品質の高位平準化(収量品質の向上)	シキミ部会	①シキミ優良系統の導入	・定植方法の試験は設置	2ヶ所	
		②収量、品質の向上のための適正管理実施	・講習会における 適正防除の推進 ・適正防除の推進 ・持ち出し量調査 ・施肥技術の検討 ・農家巡回による 推進	4回 随時 1回 2回 随時	

	7 時期別	川活動計画		8 集[団の到達目	票
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R元)	計画 (R2)
	就農状況調査 就農計画検討		就農状況調査 経営実績検討	経営分析実施者 数	2	4
	(研修生) ▼ 宮崎方	式営農支援	大 体制研修	研修会参加者数	5	5
検討会	検討会	検討会	検討会	後継者不在で70 才以上の生産者 意向把握(リス ト・マップ化)	0	1
	訪問	調査・取り	まとめ	「ト・マツノ1L)		
試験は検討設置	■調査・現	地検討	実績検討	①健全育苗技術 導入農家数	5戸	1戸(6戸)
<	定例会にお	 ける講習	>	②適正管理実施農家数(4項目以上実施)	8戸	2戸 (10戸)
農家 <	<	適期防除の 肥技術の検	推進 討	,		

専1 肉用牛繁殖の維持・向上

◎基本計画(H28~R2)

1 対象地域

管内地域(延岡市)

2 課題設定理由

管内の畜産は肉用牛繁殖が重要な品目として位置づけられている。 しかし、農家戸数および肉用牛頭数は、年々減少傾向にあり母牛頭数の確保が重要になってきている。肉用子牛の上場頭数の維持・増頭のために適正な飼養管理及び繁殖性向上に取り組まなくてはならない。

3 現状

管内の肉用牛繁殖農家戸数は263戸(平成27年1月時点)であり、母牛頭数は1,843頭、平均飼養頭数は7.0頭となっている。生産者の7割は60歳以上であり、地域の基幹品目である肉用牛繁殖農家は今後も減少することが予想される一方で、中心的担い手による母牛頭数の確保が重要な課題となっている。

管内の平均分娩間隔は416日となっており、一年一産が達成されておらず、子牛の発育においてもバラツキが見られる。また、自給飼料(イタリアン)の成分が基準値よりも低いもの、発酵品質が劣るサイレージの給与による母牛の繁殖性低下が見られ、良質な自給飼料生産のための栽培・調製技術の普及が必要となっている。

4 目標としている姿

母牛の分娩間隔の短縮による繁殖成績向上により子牛の年間出荷頭数の増加及び子牛の発育改善が図られ、魅力ある東臼杵郡の市場が維持・拡大している。

5 到達目標

項目名	基準(H 2 6)	目標(R2)
平均分娩間隔	413日	365日
子牛日増体重 (DG)	雌 0.82kg/日 去勢 0.93kg/日	雌 0.9kg/日 去勢 1.0kg/日

- ①-1母牛の適正な飼養管理がされていない
- ①-2自給飼料の栽培法や適期収穫、適切なサイレージ調製がされていない
- ②-1子牛の適正な飼養管理(給水、粗飼料の給与等)がされていない

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名		美	施年	隻		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H26現状 → R2目標)						
繁殖巡回等による分娩間隔						・飼料給与設計に基づく母牛
の短縮					٧_كا	の適正管理の実施
3.0 - 1, $0.0 - 2$	7					・土壌診断結果に基づく適正
						な施肥管理の実施
$(416 \exists \longrightarrow 365 \exists)$						
飼養管理の改善による子牛						・体測結果に基づく子牛の適
の発育の向上						正管理の実施
% 2-1	<u></u>					・子牛の牛房環境改善による
(雌 0.82 → 雌 0.9)						防寒対策の実施
(去勢0.93 → 去勢1.0)						

(※○数字は、「6目標としている姿の実現にあたっての問題点」に附記してある○数字と連動)

NO	専1	肉用牛繁殖の維持・向上
班長・高	副班長	(班長)農業普及課 米良(直) (副班長)農業普及課 一川
班員		

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

<普及課題:分娩間隔の短縮>

月に一回、JA、NOSAI、家保と連携し、繁殖巡回を実施した。重点対象集団全体で空胎日数96日は達成できなかったものの、重点対象集団10戸のうち6戸で目標を達成できた。空胎日数の長い農家は、初回授精日数が長い傾向にある。成績改善のためには、発情の見逃しを防ぐ、分娩後に良い発情を誘起する必要がある。

自給飼料の成分分析を8戸で実施したところ、土壌の施肥管理により飼料給与成分値(CP値)の日本飼養標準値充足率100%以上の目標1戸を達成できた。CP値が日本飼養標準値充足率100%を下回った自給飼料は、土壌の施肥管理不足や収穫遅れが多かった。

<普及課題:子牛の発育向上>

月に一回、JA、NOSAI、家保、振興局と連携し、体測を実施した。子牛日増体量(DG)は目標5戸に対して実績2戸で目標を達成できなかったものの、防寒対策として実施する保温箱やヒーターを工夫して設置する等飼養管理の改善に取り組む姿勢が確認できた。目標未達の農家においては、子牛の発育不良や哺育期の管理不足及び夏場や冬場の時期的な対策の遅れに伴う発育停滞が確認された。また、防寒対策の実施については目標5戸を達成できた。農家毎に牛舎環境や飼養管理方法にあわせて適切に実施されていた。

(2) 今年度の主な取組内容

<普及課題:分娩間隔の短縮>

今年度は、空胎日数の長い農家を中心に、発情がくる個体及びその時期を念押しして 伝えることで個体観察を徹底し、母牛のボディーコンディションを整えるために飼料給 与設計に基づく飼料給与指導を行う。

自給飼料成分値を改善するためには、土壌改良資材の投入や適正な施肥の必要性に対する深い理解を促すこと、また、適期収穫を実践することが必要である。今後は、施肥管理や適期収穫に係る研修会や勉強会の開催、飼料分析を通じてより良質な自給粗飼料を生産するための指導を行う。

<普及課題:子牛の発育向上>

今年度は、健康な子牛を生産するための分娩前後の増飼い指導及び子牛への飼料給与 や離乳、群編成等によるストレスを軽減するための指導を行う。また、巡回の際、暑熱 ・防寒対策の早期着手を誘導する。 2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

		具体的な	市町	JA	普及	試 験	延岡	NOSAI
光 7. 細度 5	张卫 丰 -五			J 11				NOOMI
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究	家保	
繁殖巡回等	飼料給与設計	・繁殖巡回の実		\bigcirc	0		\bigcirc	\circ
による分娩	に基づく母牛	施						
間隔の短縮	の適正管理の	• 適正飼養管理	\circ	\circ	0		\bigcirc	\circ
	実施	についての研修						
		会の開催						
	土壤診断結果	• 飼料給与設計		0	0		\bigcirc	\circ
	に基づく適正	の実施						
	な施肥管理の	• 自給飼料成分		0	0		\bigcirc	\bigcirc
	実施	分析の実施						
飼養管理の	体測結果に基	・子牛体測の実			0		\bigcirc	\bigcirc
改善による	づく子牛の適	施						
子牛の発育	正管理の実施	• 飼料給与調査			0		\bigcirc	\bigcirc
の向上		の実施						
	子牛保温によ	・子牛の牛房環		0	0		\bigcirc	\bigcirc
	る防寒対策の	境改善による寒						
	実施	冷対策の実施						

			6 具体的な活	動項目
3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項		
	集団(戸数)		活動指標	計画
繁殖巡回等に よる分娩間隔 の短縮		飼料給与設計に基づく母 牛の適正管理の実施	・繁殖巡回	10戸
· > / !!!!	(10)		・適正飼養管理についての研修会の開催	2回
			・飼料給与設計の 実施	3戸
			・成績検討会の実 施	1回
		土壌診断結果に基づく適 正な施肥管理の実施	・土壌診断の実施	1回
			・自給飼料成分分 析の実施	9戸
飼養管理の改 善による子牛		体測結果に基づく子牛の 適正管理の実施	・子牛体測の実施	5戸
の発育の向上	(5戸)		・飼料給与調査の 実施	3戸
		子牛保温による防寒対策の実施	・牛房環境改善に よる寒冷対策の実 施 (風の吹込防止、 敷床の改善)	5戸
			・成績検討会の実 施	随時

	7 時期別	川活動計画		8 集[団の到達目	票
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R元)	計画 (R2)
	(繁殖	巡回)	-	空胎日数の短縮 (分娩間隔)	110日 (395日)	80日 (365日)
	(研	修会)				
	(給与	設計)				
	(検	討会)		自給飼料成分値	1戸	1戸
•	(土壌	診断)		(CP値)の日 本飼養標準値充	(3戸)	(4戸)
	(飼料	分析)		足率100%以上達成農家戸数		
•	(子牛体測	飼料調査)	子牛日増体 量 (DC)の達成戸 数	2戸	5戸
	(研	修会)(防	寒対策)	防寒対策の実施 戸数	5戸	5戸
	(検討会)					

専2 延岡地区における施設野菜の生産振興

◎基本計画 (R 2~)

1 対象地域

延岡市全域

2 課題設定理由

延岡地区の野菜栽培は、たまねぎ等の露地栽培が中心であり、施設栽培はまだ少ないのが現状である。しかしながら、今後の地域担い手の経営安定を図っていく中で施設栽培農家を育成していくことは当地域における重要な課題となっている。そのような中、きゅうり、いちご生産者により施設野菜研究会が設立され、今後の技術向上、規模拡大を目標に活動を始めている。

また、スナップエンドウは、高単価が見込める品目として、平成24年から試験的に導入が開始され、平成26年にJA延岡豆部会が設立されるなど、延岡市も新たな産地を目指す品目の一つとして普及・拡大を図っている。新規品目であるスナップエンドウの生産振興を行うことで、産地化を図り農家所得の安定を目指す。

3 現状

きゅうり、いちごについては、地区内生産者が少ないこともあり部会組織がなく、市場出荷、直売所中心の出荷を行っている。令和元年度に環境制御等の栽培技術向上等を目的とした「施設野菜研究会」が設立された。

一部で炭酸ガス施用等の環境制御技術の取組を始めているものの、まだ普及率は低く技術レベルにも個人差がある。

きゅうり、いちごの栽培状況(令和元年度)

	きゅうり	いちご
生産者数	3名	3名
生産面積	48a	76a
炭酸ガス導入	1戸	0戸

スナップエンドウについては、高単価が見込める品目であるが、県内では産地化されていない。平成26年度にJA延岡豆部会が設立され、毎年新しく栽培を始める生産者もいるが定着していない。また、収量やA品率が低い。

延岡市内のスナップエンドウの栽培状況(平成26年度)

生産者数 8名 作付面積 45a 総生産量 5,033kg 出荷額 5,853千円 単収 1.1 t /10 a A品率 80%

4 目標としている姿

施設野菜研究会については、環境制御技術の導入により反収が増加している。事業等を活用し戸別の栽培面積を増加させることで総生産量が増加している。

スナップエンドウについては、栽培技術が向上し、目標収量を達成している。部会と しても作付面積及び出荷量が増え、産地化が図られている。

5 到達目標

項目名	基準(R1)	目標(R2)
施設野菜研究会栽培面積(きゅうり、いちご)スナップエンドウ出荷量	1. 24ha 10, 478g	1. 54ha 12, 000kg

- ※施設野菜研究会栽培面積基準は令和1年の現況
- ※スナップエンドウ出荷量は平成30年度産の実績 目標は令和元年度産(令和元年11月~令和2年5月)の実績

6 目標としている姿の実現にあたっての問題点

- ① 施設野菜農家が少なく、地域内のハウス栽培面積が少ない。
- ② 環境制御技術の導入が進んでいない。
- ③ スナップエンドウは、栽培経験が少ないこと等による管理不足(施肥、温度管理等)がみられる。また、 病害虫(灰色かび病、うどんこ病、ハモグリバエ等)の発生が多い。
- ④ スナップエンドウは、加温機導入の必要性が十分に認識されておらず、霜害が見られる。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名			施年			普及事項
	1100	_		_	D.O.	日及ず気
及び期待される成果	H28	H29	H30	R元	R2	
(H26現状 → R2目標)						
施設野菜研究会の栽培面積						環境制御技術の導入と向上
の拡大						
①、②						施設整備支援
栽培面積						
(現状 1.24ha						
→目標: 1.54ha)						
スナップエンドウの栽培技	<u> </u>					土壌消毒及び病害虫防除対策
術向上による収量の向上	\—	$\overline{}$				の実施
1), 2)						· ··-
平均反収			1			適期管理及び病害虫防除対策
(現状 1.1t/10a			<u> </u>			の実施
→目標: 2.5t/10a)						適切な温度管理による霜害対
H.W. 2.00/10d/	\leq					策の実施
						水ツ大心

※平均反収の目標値は平成30年計画から1.6t/10a→2.5t/10aに変更

	NO	専2	延岡地	延岡地区における施設野菜の生産振興						
	班長・	副班長	(班長)	農業普及課	松井	(副班長)	浜砂			
Ī	班員									

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

施設野菜研究会の会員については、一般活動として個別対応する中で、炭酸ガス施用技術に対する興味を示し、技術向上に対する意欲の高さを感じていた。そのような中で研究会を組織し勉強会等を実施していくことを提案したところ、研究会主旨に同意され設立となった。

総合農業試験場の視察研修等を計画し環境制御の理解を深めると共に、事前検討の中で事業等を活用を見据えた各自の規模拡大計画等を検討した。

スナップエンドウについては、栽培講習会や現地巡回指導を定期的に行い、栽培管理や病害虫対策の指導を行った結果、土壌消毒を実施する農家が増え、病害虫の発生も少なく、収量が向上した。

暖冬の影響で霜害発生は見られていないが、今後も発生する恐れがある。 平均反収は増えてきているが、生産者間ではバラツキが大きい。

(2) 今年度の主な取組内容

環境制御技術に関する栽培資料により個別の理解を深めると共に、巡回指導の中で 適期防除や適正な栽培管理を推進する。

スナップエンドウについては、講習会やは場巡回指導により効果的な霜害対策を進め、適期管理の推進及び栽培技術の向上を図り、さらなる収量増加につなげる。また、関係機関と連携し作付け推進を図り産地確立を行う。

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

		具体的な	市町	JΑ	普及	試 験	民間	そ	\mathcal{O}
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		他	
施設野菜研	環境制御技術	栽培資料作成、	0	0	0	0			
究会の栽培	の導入と向上	配布							
面積の拡大		生産者への個別	\circ	\bigcirc	0				
		巡回指導							
	施設整備支援	施設整備支援	0		0				
スナップエ	適期管理及び	栽培講習会	\bigcirc	0	0				
ンドウの栽	病害虫防除対	個別巡回指導	\circ	\bigcirc	0				
培技術向上	策の実施	現地検討会	\circ	\bigcirc	0				
による収量		防除暦の作成	\circ	\bigcirc	0				
の向上	適切な温度管	個別巡回指導	\circ	\bigcirc	0				
	理による霜害	霜害対策の実施	0	\bigcirc	0				
	対策の実施	指導							

※霜害対策:加温機、一重一層被覆、ストーブ、循環扇等の活用による対策

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活動項目		
	集団(戸数)		活動指標	計画	
施設野菜研究 会の栽培面積		環境制御技術の導入・向 上	栽培資料の作成、 配布	1	
の拡大			個別巡回指導	5 回	
	(6戸)	施設整備計画検討	関係機関での支援 検討	2回	
スナップエン ドウの栽培技 術向上による 収量の向上	(スナップエ		栽培講習会 個別巡回指導 防除暦の作成、配 布	1 回 6 回 1	

	7 時期別	川活動計画	8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R元)	計画 (R2)
(実績検討会)	◆ → (栽培講習会)	(巡回:	 	炭酸ガス発生装 置の導入戸数	1戸	2戸 (3戸)
≪(施設整備に向	>]けた検討会)			拡大した栽培面積	1. 24ha	0. 3ha (1. 54ha)
← → (巡回指導)	(講習会)	(巡回扌	ı	反収 2 t/10a以 上の農家数	5戸	7戸
(曆作成、配 布)						

専3 特色ある延岡果樹産地の維持

◎基本計画(R1~R2)

1 対象地域

延岡市(主に北方町)

2 課題設定理由

延岡には特色ある果樹として、もも、かき、普通温州みかん等があり、県内でも数少ない産地となっている。しかし、果実品質面の技術的な問題に加え、生産者の高齢化が著しいことから、今後の産地の維持に向けて解決すべき問題がある。

3 現状

延岡市北方町を中心に、もも、かき、普通温州みかん等の延岡ならではの特色ある果樹が栽培されている。

ももについては、無加温ハウスおよび露地栽培が展開されており、近年、単価は安定 して上昇傾向になっているが、核割れの発生が多く、品質低下を招いている。

かきについては、県内一の次郎柿の産地となっているが、生産者の高齢化等により今後面積が著しく減少することが特に危惧される。また、生産者間における品質の格差が 大きい。

普通温州みかんについては、隔年結果が顕著であり、また品質面では浮皮等の発生のより果実品質の低下が散見される。

管内には果樹経営の法人経営体があり、延岡の果樹をけん引する経営体に発展することが期待される。

4 目標としている姿

延岡果樹を代表する、もも、かき、普通温州みかんについて、5年後の栽培面積が現在の面積を概ね維持出来ている。

意欲ある果樹法人が早期に経営を安定化し、産地活性化の核となる法人が確立している。

5 到達目標

項目名	基準 (R 1)	目標(R 2)
もも、かきの栽培面積が5年後に概ね 現状維持(延岡市果樹振興協議会もも、 かき分科会員栽培面積) 着花割合(H26年(表年)の基準年を10 0%とした場合)※果樹共済みかん着花調査結果	8 2 5 a 1 0 0 %	800a 80%

- ①ももについては、作型問わず現在の主力品種において核割れが多く発生し、品質低下 を招いている。
- ②かきについては、重要病害虫の発生等による品質低下が散見される(コナカイガラムシ類、カメムシ類、落葉病等)。

また、生産者の高齢化等により、適正管理(施肥等)の実施が困難な生産者がいる。

- ③生産者や関係機関の中で「果樹産地の維持」について検討の場が無い。特にかきは今 後面積減少が特に危惧される品目である。
- ④温州みかんにおいては、隔年結果が著しく、また近年、浮皮の発生のよる果実品質の 低下が散見される。
- ⑤果樹法人については、複合経営であり、今後の規模拡大等に備えた作業計画を含めた 経営計画の策定が必要である。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

	「自及味趣ことの夫地十及わまり成木」例									
普及課題名		美	施年	变		普及事項				
及び期待される成果	H28	H29	H30	R1	R2					
(R1現状 → R2目標)										
①【もも】果実品質の向上					$/\!$	優良品種の導入				
・優良品種の導入面積					\/					
(R1 : 20a⇒R2 : 30a)										
②【かき】果実品質の向上						重要病害虫の適正防除				
・適正防除実施農家戸数						作業省力化等による適正管理				
(R1:1戸⇒R2:3戸)						の実施				
③【かき】産地維持						産地維持に向けた検討体制の				
・検討体制の構築数						構築				
(R1: O組織⇒R2:1組織)										
④【普通温州みかん】						隔年交互結実栽培法の導入				
隔年結果の是正					7	適正施肥の実施				
・着花割合										
(H26:100%⇒R2:80%)										
果実品質の向上						浮皮軽減技術の導入				
・浮皮軽減技術の導入戸数										
(R1:1戸⇒R2:2戸)										
⑤果樹法人の経営安定化						経営改善目標の達成				
・売上金額向上品目数										
(R1: -⇒R2: 1品目)										

	NO	専3	特色ある	5延岡果樹産均			
	班長・	副班長	(班長)	農業普及課	坂本	(副班長)	浜砂
Ī	班員		生頼				

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

温州みかんの隔年結果の是正および果実品質の向上について、講習会や個別巡回等を 通じて啓発等を実施した。しかし、生産者の中にはこれからの技術(対策等)について、 必要性は分かるものの高齢化により実施が困難であるとの意見も多い。

(2) 今年度の主な取組内容

延岡の果樹は、普通温州みかんだけではなく、もも、かきについても県内で有数の産地となっている。しかし、適正管理が出来ていないことや労働力不足等により、品質低下が散見される等、解決すべき問題がある。そこで、昨年度まで普通温州みかんの隔年結果是正および品質低下について普及指導計画に位置付けた普及指導活動を展開してきたが、延岡の果樹を包括的に捉え、今年度から、もも、かきも加えた普及指導計画に拡充するとともに、管内の意欲ある果樹法人が産地活性化の核となる存在となれるよう育成・支援する。

今年度の主な取組としては、ももについては、近年単価は上昇傾向で安定しているものの、核割れ等による品質低下が見られることから、主力品種である「ちよひめ」より核割れが少なく、重量も重く糖度も高い品種「さくひめ」の導入について推進する。

かきについては、重要病害虫(コナカイガラムシ類、カメムシ類、落葉病)の適正防除ができていないことに加え、生産者の高齢化等により適正管理ができていない問題があることから、適正防除の推進を図るとともに、施肥等における作業の省力化について検討し、普及を図る。また、担い手不足や生産者の高齢化が顕著であり、今後栽培面積の減少が特に危惧される品目であることから、産地維持に向けた検討体制の構築を目指す。

普通温州みかんについては、隔年結果の是正に向け、適正施肥の実施や隔年交互結実 栽培法の導入について推進を図る。また、近年、浮皮の発生による品質低下が見られる ことから、浮皮軽減技術導入の推進を図る。

果樹法人については、法人化して間もないことから、早期の経営安定化に向けた支援を実施する。

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

12 4 7 7 12 3 4		具体的な	市町	JA	普及	試験	民間	農業
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		共済
		.,,,,,,,	, .			, , , _		組合
[55]	優良品種の導	講習会の実施	0	0	0			
果実品質の	入	個別巡回による		\circ	0			
向上		推進						
【かき】	重要病害虫の	講習会の実施	0	0	0			
果実品質の	適正防除の実							
向上	施	個別巡回による		\circ	0			
		推進						<u> </u>
	作業省力化等	年1回施肥実証	\circ	\circ	0			\circ
	による適正管	ほの設置						
	理の実施	労力補完の検討	0	0	0			
産地維持	産地維持に向	内外部リーダー	0	\circ	0			\circ
	けた検討体制	会の実施						
	の構築							
【普通温州みかん】								
隔年結果の	隔年結果対策	展示ほの設置	\circ	\circ	0			\circ
是正	技術の導入	講習会の実施	\circ	\circ	0			
	適正施肥の実			\circ	0			
	施	個別巡回による		\circ	0			
	 	推進 	 					
	浮皮軽減技術			0	0			
向上	の導入	講習会の実施		\circ	0			
		個別巡回による		\circ	0			
	t= 3/1 = 1 - 3/1 - 1 - 1	推進						
		作業計画の検討	0		0			
経営安定化	の達成	労力補完の検討	0		0			
		個別巡回等によ		\circ	0			
		る技術指導						

	4	- # D = -	6 具体的な活	動項目
3 普及課題	4 重点対象 集団(戸数)	5 普及事項	活動指標	計画
【もも】 果実品質の向 上	延岡市果樹振 興協議会もも 分科会主要生 産者(5戸)	優良品種の導入	講習会の実施 個別巡回による推 進	2回 随時
【かき】 果実品質の向 上	延岡市果樹振 興協議会かき 分科会主要生	①重要病害虫の適正防除 の実施	講習会の実施 個別巡回による推 進	3回 随時
	産者(4戸)	②作業省力化等による適 正管理の実施	年1回施肥展示ほの設置 労力補完の検討	1ヶ所 1戸
産地維持に向けた検討体制の構築		産地維持に向けた検討体 制の構築		2回
【普通温州みかん】 隔年結果の是正	延岡市果樹振興協議会かんきつ分科会の	①隔年交互結実栽培法の 導入	展示ほの設置講習会の実施	1ヶ所 2回
	内、主要な普 通温州みかん 生産者(4戸)	②適正施肥の実施	講習会の実施 個別巡回による推 進	2回 随時
果実品質の向 上		浮皮軽減技術の導入	展示ほの設置	1ヶ所
			講習会の実施 個別巡回による推 進	2回 随時
【果樹法人】 果樹法人の経 営安定化	管内果樹法人 1法人	経営改善目標の達成	作業計画の検討	2回
			労力補完の検討	2回
			経営改善目標の検 討	2 回
			個別巡回等による 技術指導の実施	随時

	7 時期5	引活動計画	8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)
講習会		講習会		優良品種の導入 面積	20a	30a
	個別	巡回				
講習会	講習会	講習会	>	適正防除実施戸 数	1戸	3戸
	個別	巡回				
調査	調査	果実調査	実績検討	作業省力化導入 戸数	_	2戸
100000	検討		 検討 			
検討会	検討会			検討体制の構築 数	0	1
講習会	展示ほ設置	調査	講習会	隔年交互結実栽 培法の導入戸数	1戸	2戸
講習会	個別	」巡 回	講習会	適正施肥実施戸 数	2戸	4戸
講習会	展示ほ設置	果実調査	果実調査 (貯蔵中) 講習会	浮皮軽減技術の 導入戸数	1戸	2戸
<	個 別	巡回	→			
検討			検討	年間作業計画策 定数	_	1
検討			検討	労働力補完対策	_	1
検討			検討	実施数		
	検討					
<	個 別	<u>巡</u> 回	>			

専4 経営発展をめざす農業者のスキルの向上

◎基本計画 (H 2 8~R 2)

1 対象地域

延岡市

2 課題設定理由

新規就農者を始め農業経験のステージごとに研修を行う「宮崎方式営農支援体制」が構築され、研修に対しての幅広い取組が可能となったことにより、対象を幅広く捉えることが求められるようになった。集合研修を関連させながら個別の経営改善に取り組む活動が必要となった。

3 現状

地域農業の担い手が減少する中、担い手の経営技術を高めるための宮崎方式営農支援 体制における集合型研修が全県下で実施されるようになったことで、経営技術の基礎的 なところをこの部分で対応することができるようになった。

また、国の制度の中においては、認定計画の実施状況の指導や、青色申告する農家が様々な事業の要件になるなど、一定の基準を満たした経営管理能力を有した農業者の育成を求められている。

4 目標としている姿

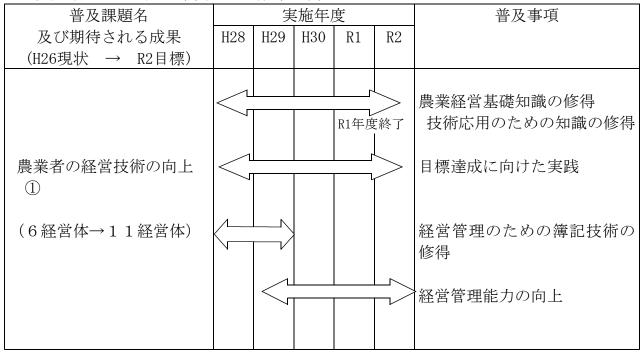
集合研修で経営管理の重要性を啓発し、個別に繋げ、経営改善提案を実施できる体制を整備することにより、経営マネージメントが実践できる「経営者」としての農業者が育成されている。

5 到達目標

項目名	基準(H26)	目標(R 2)
経営改善に取り組む農家	6経営体	延べ11経営体

①認定農業者においても高齢化が進み、新たに簿記を開始する経営者を増やすことは難しい状況にある。新規就農者には就農の条件の一つとして簿記を推進し増やしている。記帳管理が困難な経営体においては、青色申告会など記帳管理を外注するなど、積極的に利用する啓発からのアプローチも必要である。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測



NO	専4	経営発展を目指す農業者のスキル向上
班長・	副班長	(班長) 農業普及課 松元 (副班長) 米良(典)
班員		一川、米良(直)、大木、福丸、浜砂、松井、永谷、坂本

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

「宮崎方式営農支援体制」により、農業者の経営発展レベルや就農形体に対応した研修を実施し、基礎技術の修得や経営の改善に向けた意識啓発を図った。

また、給付金受給者については、巡回調査や実績検討、簿記記帳支援を行うことにより経営状況を把握し、計画達成に向けた課題の提示・解決策の提案を行った。

経営診断実施者については、プロパー担当において巡回指導や改善計画の提案書の作成、実績検討による課題の抽出、相談会の実施などにより、継続した経営改善の取組支援を行っている。

また、法人化や事業承継を志向する農業者については、経営相談や関係機関や専門家 を招請した相談会実施の支援により、2戸が法人化して新たな計画のもとで経営改善に 取り組みを始めた。

最終年となる今年度については、給付金受給者、モデル農家及び法人化等志望農業者に対して、必要な支援を充実して実施することにより、対象農業者の経営管理能力の向上を図る。

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活動項目		
	集団(戸数)		活動指標	計画	
	給付金受給者 (7戸)	目標達成に向けた実践	研修会の開催	2回	
			計画達成状況確認、 指導助言	7戸	
農業者の経営 技術の向上	経営改善診断 実施者 (8戸)	経営管理能力の向上	目標に向けた経営診断の実施	個別指導	
	法人化等を志 向する農業者 (2戸)		経営相談の実施	個別指導	

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

普及課題名	普及事項	具体的な 活動項目	市町村	J A	普及センター	試 験 研究	民間	そ他	の
農業者の経 営技術の向 上		計画達成状況確認、指導助言	0	0	0				
	経営管理能力 の向上	目標に向けた経営診断の実施	0	0	©				
		経営相談の実施	0	0	©		0		

	7 時期別	川活動計画		8 集団の到達目標				
4~6月	7~9月	10~12 月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)		
研修会	大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	▼ 研修会	大況確認 指導助言	経営分析実践者 数	5戸	7戸		
« ——	個別指導	>	************************************	経営課題設定農 家数	10戸	8戸		
←	個別指導		>	経営改善計画の 作成者数	2戸 (3戸)	1戸 (4戸)		

専5 延岡地域における6次産業化の推進

◎基本計画(H28~R2)

1 対象地域

延岡市 (管内全域)

2 課題設定理由

東九州道の開通により、管内の道の駅や、農産物直売所は活況を呈している中で、延 岡発の「商品づくり」が求められている。

「農閑期」「農繁期」通して雇用を維持するためにも、一年を通して作業を組み込むことができる6次化や多角化への関心が高い。

延岡市が主催する「のべおか6次産業化・農商工連携塾」は4年目を経過し、継続した参加で、6次産業化の実現に意欲を高める農業者が増えている。

「6次化」、「多角化」は、農業以外にも、新しい分野進出による競合や、様々な産業との連携といったビジネスとしての意識が重要となり、課題も複雑になることから、取り組むための情報提供や意識啓発といった、地域における支援体制が求められる。

3 現状

加工原料部会「きらり」と地元企業との農商工連携により、焼酎、酒等が開発されている。

6次化総合化事業計画の認定を受けている農業者が4経営体あり、補助事業等を活用 して商品化や、観光農園等の発展をみせている。

農業者同士で、販路拡大や6次化に向けての意見交換会の開催や、関連産業が商品開発する上で要望する作物の試験栽培等の動きも出てきている他、「観光」「飲食」「交流」「福祉」など農業方面から貢献できる部分の参加が求められている。

4 目標としている姿

「6次化」による付加価値の創造で、産地間競争などに捕らわれないオリジナリティのある商品作りを通して、経営資源を活かし幅広く活躍する農業者が増えている。

5 到達目標

項目名	基準(H 2 6)	目標(R2)
6 次化等による商品開発及び 取組数	3	10

6 目標としている姿の実現にあたっての問題点

- ①関係機関での情報共有が十分ではない。
- ②他産業と関連した専門領域があるため、多方面の専門家との分業が多くなる傾向があり、対象者に対しての効率的な支援をコーディネートする必要がある。
- ③「商品開発」と「農業生産」の要素ごとの指導体制はできているが、一つの経営体に対する指導連携が十分でない。

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名			施年	隻		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R1	R2	
(H26現状 → R2目標)						
延岡らしい新商品の開発 ①、②、③	5					6 次化経営目標の樹立
(商品開発数1→5)	\\					消費者ニーズをふまえた商品 開発
6次化を支える農業生産基 盤の強化 ①、②、③	\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \					経営ビジョンの作成 6次化計画の実践
(総合化事業計画認定数 4→6)						

◎年度計画(R2)

ΝO	専門 5	延岡地域は	こおける	る6次産業化	の推進				
班長・	副班長	(班長)農業報	手及課	米良(典)		(副珍	圧長)農	業普及	課 松元
班員		農業普及課	一川	米良(直)	大木	福丸	浜砂	松井	坂本

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

これまでの相談会や商品開発検討会を通じた取組が新商品の開発につながってきている。また、6次化サポートセンターのプランナーやコーディネータと連携した支援が、総合化事業計画の認定につながっており継続した取組が必要である。

しかし、6次産業化のニーズはあるものの、相談者は減っている。また、市6次産業 化塾受講者のニーズが把握できていない。

新たに国総合化事業計画認定を目指す農家が2名いるが、十分なフォローができていない。

(2) 今年度の主な取組内容

市と連携を図りながら6次産業化総合化事業計画策定にステップアップさせる農業者を育成し、延岡らしい新商品の開発や農業生産基盤強化に向けたフォローアップを行う。 総合化事業計画認定希望者についての計画策定や商品化に向けた支援を行うととも に、既認定者に対し、計画実現に向けての生産指導、経営指導を行う。

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活動項目			
	集団(戸数)		活動指標	計画		
延岡らしい新商品の開発	市 6 次化塾 受講農業者 (32戸)	6 次化経営目標の樹立	市との連携による 相談会参加啓発	2 回		
	新商品開発を 目指す農業者	消費者ニーズをふまえた 商品開発	商品企画検討会の 実施	3 回		
6次化を支え る農業生産基 盤の強化	(2戸) 6次産業化 総合化事業計	経営ビジョンの作成	総合化事業計画の ビジョン検討	2 回		
mr - 3210	画認定者 (5戸)	6次化計画の実践	栽培指導及び計画 進捗管理助言	3 回		
			経営分析	1 回		

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

	美妙技制为担		,	(:心口、	U . Æ	诱义饭	,
		具体的な	市町	JΑ	普及	試 験	民間	その
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		他
								公社
延岡らしい	6次化経営目	相談会の実施	\circ		0			\circ
新商品の開	標の樹立							
発		商品企画検討会	0		\circ	0		
		コンセプトの明	0		0			
	をふまえた商	·			_			
	品開発	プランナーとの			0			
		調整						
	\$\forall \text{\pi} \	(年) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1						
· ·	経営ビジョン	個別文援	0		0			
える農業生産基盤の強	の作成							
生産盛り短	 6次化計画の	北 松比道		\bigcirc	0			
16	実践	計画進捗管理	0					
	天成	経営分析	0		0			
		性 色 刀 型						

	7 時期別	川活動計画		8 集団の到達目標			
4~6月	7~9月	10~12 月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)	
▼個別巡回 ニース・把握	▲ 相談会 → 参加啓発		相談会 参加啓発	相談者数	3	5	
	検討会 商品コンセ プト明確化	個別 技術情報提 供支援	巡回 セミナーへ の誘導	商品化取組実施 者数	2	2	
個別巡回 ビジョン検 討、事業進 捗管理	栽培指導	経営分析	検討会 > 経営実績検 討	総合化事業計画 実施経営体数	1 (5)	2 (7)	

専6 高品質・茶種のバリエーションを活かした釜炒り茶産地の育成

◎基本計画 (H 2 8 ~ R 2)

1 対象地域

延岡市北方町

2 課題設定理由

延岡市管内で生産されているお茶は、バリエーションに富んでおり、煎茶を主体に釜炒り茶、香味茶(ブレンド紅茶)など多岐にわたる。販売面においては、経済連出荷が約4割、小売販売が約6割と、小売販売が多い産地である。しかし近年、消費及び価格の低迷が著しく、十分な所得の確保が厳しい状況になりつつある。

そのような中、釜炒り茶の生産は管内8戸の農家で行われており、うち6戸が中山間地である延岡市北方町において集団で取り組んでいる。北方町では、茶の品質向上はもとより香味茶等の新商品開発・製造及び販売にも熱心であり、地域リーダーを中心に、技術や知識を相互に補完し、小規模ながらも非常にまとまった産地であることから対象地域として選定した。当地域において、農家売上の向上を目標とした品質向上支援等に取り組むことで、管内生産者の意欲を高めるとともに、全域への波及を図る。

3 現狀

農家戸数は6戸(うち兼業5戸)、中山間地であることから面積は約3haと産地の規模は小さく、知名度も低い。茶種は釜炒り茶が主であるが、近年は、紅茶を原料とした種々の香味茶(ブレンド紅茶)等も生産されており、商品はバリエーションに富んでいる。販売は小売主体であるが、顧客の高齢化等により販売量は年々減少傾向にある。

しかし、近年、全国茶品評会をはじめとする各種品評会において上位入賞し、ブランド審査(みやざき釜炒り茶「釜王」)に合格するなど、着実に品質向上が図られ産地としての知名度も高まりつつある。

4 目標としている姿

全国茶品評会への出品・県ブランド(みやざき釜炒り茶「釜王」)への認証取組等を通して、品質向上が図られているとともに、売上の向上が図られている。また、全国茶品評会では上位入賞を果たし、産地としての知名度が高まるとともに、販売面では消費者に選んでもらえる商品が生産されている。

釜炒り茶を軸に香味茶(ブレンド紅茶)などが生産され、他産地との差別化が図られているとともに、多様な商品バリエーションを活かした販売が展開されている。

5 到達目標

項目名	基準(H 2 6)	目標(R 2)
売上向上(戸数) ※経済連出荷額+小売(アンケート)から算出	一戸	6戸

6 目標としている姿の実現にあたっての問題点

- ①近年、茶の品質は向上しているものの、依然として西臼杵地域との品質差が見られる
- ②県ブランドへの取組が一部の農家に止まり、産地全体での取組に至っていない
- ③生産者によって香味茶の品質にばらつきが見られる
- ④高齢化やリーフ茶離れ等により、小売先が減少しており、新たな販路の開拓と売上の向上が必要である

7 普及課題ごとの実施年度および成果予測

普及課題名	, - 5. 5		施年	 变		普及事項
及び期待される成果	H28	H29	H30	R1	R2	
(H26現状 → R2目標)						
釜炒り茶の銘柄確立						各種品評会を利用した品質向
*124					<u> </u>	上対策
全国茶品評会 入賞戸数	7					
(2戸 → 3戸)						
						高品質茶産地を目指したブラ
「釜王」認証戸数					L	ンド「釜王」への取組
(1戸 → 3戸)	7					
香味茶の産地化						香味茶の品質ばらつき原因把
*34						握
		\langle				the last of the
香味茶の品質ばらつき原		7				製造方法改善
因把握·製造方法改善戸数						
(一戸 → 3戸)						
 生産者が主体となった						学校のキャリア教育授業等を
主座有が主体となった 認知度向上対策(PR活動)					L_	活用したPR活動
(1回 → 合計12回)		7			\sqcap^{\nearrow}	
						各種イベントにおけるPR活動

(※○数字は、「6目標としている姿の実現にあたっての問題点」に附記してある○数字と連動)

◎年度計画(R2)

NO	専6	高品質・	・茶種のバリコ	にーション	/を活かした釜炒	り茶産地の育	成
班長・	副班長	(班長)	農業普及課	大木	(副班長)	農業普及課	一川
班員							

1 前年度までの活動経過及び今年度の主な取組内容

(1) 前年度までの活動経過と残された問題点

関係機関と連携して支援を行い、釜炒り茶の品質及び産地知名度の向上等を目的に、全国茶品評会などの各種品評会、県ブランド「釜王」認証審査に取り組んできた。また、安全安心なお茶づくりを目指し、GAPへの取組も推進している。近年消費が拡大している香味茶(ハーブ等をブレンドした紅茶)についても、品質向上を目指した研修会を開催し、改善に向けた取組を実施している。

品評会及び県ブランドへの取組は近年盛んになっており、平成30年度全国茶品評会で1位を獲得したが、依然として農家間の品質格差が大きく、高品質茶産地には至っていない。また、香味茶についても同様であり、ベースとなる紅茶の品質が安定しないことから農家個々で品質が異なる現状である。

当地域の茶販売は、小売が主体であるが、近年主な取引先である個人向けの売上が減 少傾向にある。また、リーフ茶の需要減少によって、緑茶を生産して販売するだけでは 売上の向上は見込めない状況となっている。

(2) 今年度の主な取組内容

釜炒り茶の品質向上のため、土壌分析結果に基づいた施肥設計や液肥施用の普及を進めるとともに、製茶技術の向上を行い高品質茶の安定生産を目指す。また、紅茶の製造研修を行い香味茶品質の改善を図るとともに、消費者から選ばれる茶生産を目指して、消費者ニーズの高い茶商品(香味茶やほうじ茶、粉末茶等)の開発検討の実施と生産推進に取り組む。

販売対策については、学校における食育活動や各種イベントにおける認知度向上対策 (PR活動)を支援するとともに、消費者ニーズに対応した商品づくりや販売方法の検討会を実施する。

2 関係機関の役割分担

(◎:実施者、○:連携支援)

5477 554	K	具体的な			普及	試験	民間	その
14 ∓ ≥= ==	* T		市町	JA			CIII CIII	_
普及課題名	普及事項	活動項目	村		センター	研究		他
	各種品評会を	栽培·製造技術	\bigcirc	\bigcirc	(\circ		農林
	利用した品質	講習会						振興局
	向上対策							
釜炒り茶の	1,177,171	 品質向上展示ほ		(i)	0			
1		四貝円上灰がは						
銘柄確立		#:\\\ - \\ \ +!\\\						
		製茶工場の点検・整備	\circ	\circ	0	\circ		
	高品質茶産地	栽培・製造技術	\bigcirc	\bigcirc	0			農林
	を目指したブ	講習会						振鵬
	ランド釜王へ							
	の取組	 品質向上展示ほ		0	0		\bigcirc	
		四貝円上灰がは					0	
							肥料ノーカー)	
		GAPへの取組推進	\bigcirc	\circ	0			
	製造方法改善	製造研修会		\bigcirc	0	\circ		農林
								振鳴
	新商品の開発	生産推進活動	\circ	\circ	(
	生産	11/11/11/CTI	O	O				
香味茶の	/ 							
産地化		 						
	各種イベント	学校や各種イベント	0	\bigcirc	0			農林
	におけるPR	でのPR活動						摄赐
	活動							
		商品づくり・販	\circ	0	0			
		売に関する検討						
		会						

3 普及課題	4 重点対象	5 普及事項	6 具体的な活	·動項目
	集団(戸数)		活動指標	計画
		各種品評会を利用した品 質向上対策	栽培・製造技術講習会の開催	7 回
			品質向上展示ほ の設置	3カ所
釜炒り茶の	北方茶生産組		製茶工場の点検・ 整備	4回 (4カ所)
銘柄確立	合(8戸)	高品質茶産地を目指した ブランド釜王への取組	栽培・製造技術講 習会の開催	7回
			品質向上展示ほ の設置	3カ所
			GAPへの取組推進	5回
		製造方法改善	製造研修会の開催	1 回
香味茶の 産地化	"	新商品の開発生産	生産推進活動	2 回
			学校や各種イベン トでのPR活動	4回
			商品づくり・販売 に関する検討会	2回

7 時期別活動計画				8 集団の到達目標					
4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	成果指標	実績 (R1)	計画 (R2)			
(全品製造研修会)	(研修会:施肥防除)	(現地研修会: 秋整 校)	(研修会:施肥防除)	県共進会 入賞戸数	0戸	2戸			
(肥料展示ほ)		18.7		全国茶品評会 入賞戸数	3戸	3戸			
			★ (茶工場点検·整備)						
(製造研修会)	【「釜王」審査結果	(現地研修会: 秋	(研修会:施肥防除)	「釜王」認証戸数	4戸	4戸			
	検討会) (研修会:施肥防除)	整枝)		「釜王」認証点数	11点	11点			
(堆肥&液肥展示ほ)	← →	<		ひなたGAP 取組戸数(※記録 や整理整頓など具 体的な取組)	1戸 (ひなたGAP 取組戸数)	3戸			
	(研修会:GAP取組推進) (香味茶の品質向上 研修)	(GAPへの取組支援)	(研修会:GAP取組推進)	香味茶の品質ば らつき原因把握 ・製造方法改善	3戸	3戸			
	(研修会:取組推進)		(研修会:取組推進)	戸数 新商品の開発生 産戸数	-戸	1戸			
<	(学校や各種イベ	ントでのPR活動)	>	生産者が主体と なった認知度向 上対策(PR活動)	5 回 (計13回)	4回 (計17回)			
	(商品づくり・販売	に関する検討会)		※H28 2回 H29 3回 H30 3回					

IV 一般活動等

第1 一般活動

部	課題名	対象名	主な活動内容
門			
作	うまい米作りの推	延岡地域稲作研	栽培講習会
物	進	究会 (35戸)	現地巡回、研修会
			先進地研修会(1回)
野	適正な施肥・かん	中玉トマト部会	適正な施肥・かん水管理について、講習
菜	水管理による収量		会を実施
	の向上		
	適正な栽培管理技	アスパラガス部	適正な栽培管理について、講習会を実施
	術による収量の向	会	
	上		
果	出荷時期の早進化	延岡市きんかん	一番花着果率および品質向上に向けた講
樹	および品質向上	生産組合	習会や巡回指導等を実施する。
	収量および品質向	延岡市内マンゴ	収量および品質向上に向け、巡回指導等
	上	一生産者	を実施する。
++-	ロ 見よい トッドロ 所 の	ガ図去サキギ印	サや 無 辺 人 の 間 房
花した	収量および品質の	延岡市花き振興	栽培講習会の開催
き	向上	会	土壌診断結果に基づく施肥指導
			展示ほの設置 巡回指導
			™凹指導 展示会等PR活動への支援
特	収量および品質の	延岡茶生産組合	栽培講習会 表示云等FR佰動への文版
用用	向上(茶)	(延岡市)	品評会(荒茶・茶園)
) 11		(延岡川)	土壌診断に基づく施肥指導
			巡回指導
	収量および品質の	ホップ生産者	試験ほの設置
	向上 (ホップ)	(北方地区)	土壌診断に基づく施肥指導
		_ , ,	巡回指導
畜	適正な飼養管理に	延岡地区肉用牛	子牛セリ前研修、畜産研修会
産	よる肉用牛飼養頭	繁殖農家	
	数の向上		

部	課題名	対象名	主な活動内容
門			
経	経営改善計画の作	資金借受農業者	制度資金借受にあたって、資金計画作
営	成支援		成時の助言、資金借受予定者の相談対応
	学修会等を通した	延岡市SAP会	・定例会の支援
担	活動推進	議 (10名)	・学修会の支援
			・プロジェクト活動への支援
٧١	女性農業者の社会	東臼杵北部地区	・総会・役員会の開催支援
	参画促進	農山漁村女性サ	・研修会の開催支援
手		ポート協議会	
	集落営農組織の育	延岡地域全体	集落の現状把握や集落営農への理解を
	成		促し、集落営農組織の推進を図る。
鳥	集落ぐるみの鳥獣	延岡地域全体	補助事業等防護柵設置集落の代表者等
獣	被害対策の近隣集		を対象に地域リーダー研修を開催し、集
被	落への波及		落ぐるみ被害対策、防護柵管理手法等の
害			研修を実施する。
対			各種鳥獣被害対策技術展示を行い、効
策			果的な普及を図る。
共	産地戦略に基づく	産直協議会	関係機関等連携して、地産地消を推進
通	産直農産物の振興		し延岡の特色を活かした農業振興に取り
			組む。

第2 普及指導活動の評価体制

普及指導活動計画は、普及事業推進協議会や農業経営指導士会等の関係者との意見 交換などの協議を行うとともに、関係する地域の農業振興計画等や関係機関・団体等 と一体となって作成した「主要品目の産地戦略」、「地区人・牛プラン」等と整合性を 図りながら策定することとしている。

普及活動は年度計画に基づいて行い、進捗状況や成果について月ごとに報告・協議等を行い改善しつつ推進を図っている。

また、毎月の活動成果等は「月報」としてとりまとめ、地域の農業経営指導士や国 県の議会議員をはじめ延岡市、各総合支所、JA、関係機関・団体等へ幅広く情報提 供を行うとともに、県庁ホームページに公開をしている。あわせて、地域のトピック ス等について農林振興局の定期情報誌に掲載して地域の関係者等へ情報提供を行って いる。

さらに、年度末~年度始めにかけて、普及事業推進協議会や農業経営指導士会等を対象とする普及計画・実績検討会や関係機関・団体の所属長を対象とする産地戦略報告会などを通して検討を行い、活動成果や残された問題点と課題、次年度以降の対応等について協議し、年度ごと及び5カ年の活動実績についての評価と意見を求める場として位置づけしている。

県で実施される県内各普及センターを対象とする外部評価は、2~3年ごとに1度、各普及センターを対象に実施されることになっており、普及活動成果の評価結果等について、基本計画と単年度計画を毎年度見直しを行うなかで、随時、改善するなどして適切な対応と活動につなげていくことにしている。当普及センターは、今年度外部評価の対象となっている。

V 参考資料

第1 普及事業協力団体

1 東臼杵北部農業改良普及事業推進協議会

関係機関と一体的な普及指導活動を展開するため、東臼杵北部農業改良普及事業推進協議会を設置して普及指導活動計画の推進支援、協力を依頼し、普及指導活動の実績・成果や関係機関・団体の連携等について協議を行い、効率的な普及指導活動を推進する。

機 関・団 体 名	役 職 名	備考
延岡市	総合農政課長	
	農業畜産課長	
延岡市北方総合支所	産業建設課長	
延岡市北川総合支所	産業建設課長	
延岡市北浦総合支所	産業建設課長	
延岡市農業委員会	事務局長	
延岡農業協同組合	営農総合対策課長	
	畜産振興課長	
	農産園芸振興課長	
宮崎県農業共済組合	副センター長	
北部センター		
延岡市土地改良区	事務局長	
東臼杵農林振興局	農政水産企画課長	
	農畜産課長	
(普及センター)	北部普及担当次長	会 長
	農業普及課長	事務局

2 農業経営指導士

(敬称略)

氏 名	地域	備 考
川原博之	延岡市 (旧市内)	施設いちご、水稲
長友 幹彦	延岡市(旧市内)	肉用牛繁殖
片岡 薫	延岡市北川町	シキミ
甲斐 丈義	延岡市北方町	温州ミカン、桃、不知火等果樹
佐藤 純子	延岡市(旧市内)	茶、たまねぎ、水稲、飼料用稲
牧野 恭広	延岡市(旧市内)	水稲、麦
甲斐 淳一	延岡市北浦町	たまねぎ、スナップエンドウ等
木原 清美	延岡市北浦町	肉用牛繁殖

第2 普及センターの活動班

活動班名	活動内容・目的	班 長 担当課長 進行管理	副班長 (主担当者) 企画調整	班員
経営	経営管理指導 (簿記·経営分析等) 認定農業者支援 制度資金活用支援 経営関係事業推進等		松元	米良(典) 一川 米良(直) 大木 福丸 浜砂 松井 永谷 坂本
情報	情報化推進 パソコン管理等		松元	米良(典) 一川 浜砂
	広報誌や要覧の作成 (普及センターパンフ レット含む 情報・印刷物等の整理	生賴	米良(典)	松元 一川 浜砂 松元 米良(直) 永谷
担い手育成	延岡市SAP活動支援 就農支援等		米良(典)	一川 米良(直) 大木 福丸 浜砂 松井
	宮崎方式営農支援研修		松元	永谷 坂本

第3 重点プロジェクト

1) プロジェクト課題一覧(県全域版)

N O	課題名	目標としている姿とそれに向 けた主な活動内容	担当		Ź	実施 音	手及1	マンク	ター名	7	
		() (二工/よ1百男)(1) 合	子汉	中 船	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	南部	北部	西臼杵
重 1	専用品種の 導入等によ る加工用米 及び飼料用 米の収量向 上対策の推 進	向け加工用米や飼料用米の専 用品種の選定を行うとともに	英人杉田	0	0	0	Δ	0		0	_
重 2	きゅうり産 地の維持拡 大に向けた 複合環境制 御技術の普 及	平成32年度においてもきゅうり収穫量全国1位を維持していくために、複合環境制御技術技術の普及と、栽培管理作業の標準化・効率化を図り、単収の向上と生産者一人あたりの栽培面積拡大を目指す。	吉山健二	0	0	0	0				_
重 3	- - · · ·	疫病が確実に予防され、品質(水晶、食味)が良く加工 歩留まりや市場評価の高いさ といも生産をめざし、総合的 な疫病対策の実践や、生育に 的確に応じたかん水や肥培管 理技術を普及する。	川﨑佳栄	\triangle	ı	0	0	\triangle	ĺ	1	_
重 4	ス分析と目 標設定シー ト等を活用 したマンゴ	マトリックス分析と目標設定シートを活用して、生産者の技術改善を進めるとともに、あざ果症対策や除湿による品質向上対策、剪定後の高温管理等の技術を普及することで、マンゴーの収量と品質の向上を図る。	鈴木 美里	•	0	0	(i)	0	0	_	_

※○:基本プロ、○:専門プロ、 \bullet :重点プロ、 \triangle :一般課題

N O	課題名	目標としている姿とそれに向 けた主な活動内容	担当	実施普及センター名		<u></u>					
U		りた土な石動的谷	导仅	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	南部	北部	西臼杵
	ニーズの高 い露地花き	早期出荷が実現し、安定した生産出荷体制の確立したキイチゴや基本技術が定着し、反収1万本が可能なヒペリカム等、マーケットの要求に対応した露地花き品目の産地化を推進する。	明紀	0		\triangle	\triangle	\triangle	\triangle	\leq	•
重 6	産性向上に よる肉用子	飼料の外部委託化により自 給飼料の確保が進み、科学的 データに基づく飼養管理が徹 底され、肉用牛の生産性が向 上し肉用子牛の産地が確立し ている。 ・モデル農家設置 ・子牛生産性向上に関する要 因解析、研修会の実施 ・流通システムの実証	佐喜 子	0	0	0	0	0	0	0	0
重 7	取り組む鳥 獣害から守 れる田畑・		岩佐宏登	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	0

※◎:基本プロ、○:専門プロ、●:重点プロ、△:一般課題

_	86	_
---	----	---

